

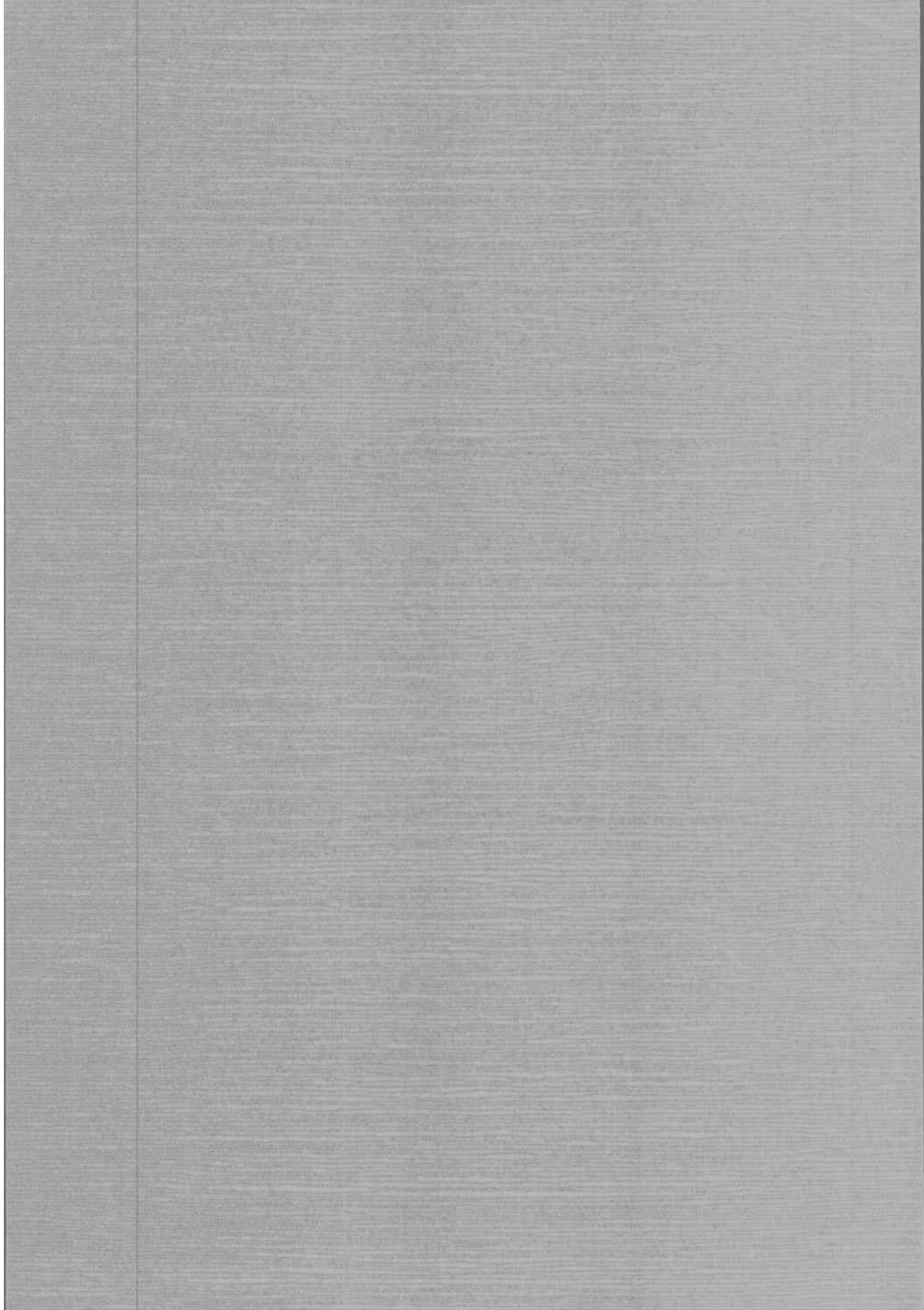
紀 要

第 6 号

《自然部門》

〈平成8年度〉

茅野市八ヶ岳総合博物館



発刊によせて

八ヶ岳総合博物館の活動も8年目を過ぎ、平成8年度は博物館の活性化をめざし、公民館や青少年自然の森からいただいた事業も含め多くの活動を展開して参りました。

「いろりをかこむ食べ物と暮らし」をテーマにした収蔵品展、学芸員の調査を基に企画し、諏訪教育会植物委員会に標本提供をいただいた「八ヶ岳の植物」写真と標本展、特別展として今年度初めて企画された「伊東文庫による近代短歌資料展」を、そして市内小中学生の皆さんの「研究創意工夫展」と、地域の皆様に新しい企画を提供できるよう努力して参った所であります。

さらに、市民の皆様方からの要望にソフト面から応えて行くロビー体験コーナーも、科学面での新しい内容も含めて、充実して参りました。企画展、体験学習、地域学習講演会、探勝会、そして北部生涯学習センターの天体観測室を使つての観望会にと、それぞれ興味ある分野で、市民の皆様の生涯学習の一助になり得たのではないかと思うわけであります。

今年度ここに、紀要第6号を発刊することができ、広く皆様方に館の資料を提供できるのは、地道な研究の集積の成果があつてこそ成り立つことでして、館の事業の他に常に調査研究を継続していることが、博物館としては重要なことと考えております。

内容につきましては、今年度は本館職員の他に専門委員にも執筆いただきました。それぞれ専門の方々から、ご指導、ご助言をいただければ幸でございます。

終りになりましたが、今年度博物館へ多くの物品のご寄贈、ご寄託をいただきました皆様、博物館の運営にご指導とご助言、ご協力をいただきました博物館協議員・専門委員の皆様、そして本館事業にご参加ご協力いただきました博物館ボランティアの方々、地域の皆様に心より感謝を申し上げますと共に、今後も博物館のためにお力添えいただきますようお願いいたします。

平成9年3月

館長 両角源美

The following information is provided for your reference:

1. The first section of the document contains the main findings of the study.

2. The second section discusses the methodology used in the research.

3. The third section provides a detailed analysis of the data collected.

4. The fourth section concludes the study and offers recommendations for future research.

5. The fifth section contains the references cited in the document.

6. The sixth section includes the appendices and supplementary materials.

7. The seventh section contains the contact information for the authors.

8. The eighth section contains the acknowledgments.

9. The ninth section contains the disclaimer.

10. The tenth section contains the copyright information.

自然部門

目次

自然部門

- ・諏訪地方におけるカヤネズミの生息状況について2……………両角 源美 (1)
永富 直子
両角 徹郎
- ・上川河川敷におけるオオヨシキリ類の巣の分布について……………永富 直子 (9)
両角 源美
- ・茅野市八ヶ岳総合博物館所蔵のナガレタゴガエル標本について……………下山 良平 (17)
- ・茅野市内で採集した大型トンボ類について(第1報)……………下山 良平 (23)
- ・ヤママユガの寄生バチについて……………松沢 かね (27)

人文歴史部門

- ・諏訪神社上社神長官守矢家文書目録作成について……………正木 美香 (一)
- ・神長官守矢史料館受託什器目録……………正木 美香 (四)
- ・茅野市宮川茅野五味正人家文書目録(その1)……………細田 貴助 (十一)
正木 美香

年報

- ・平成7年度事業報告…………… (31)
- ・平成8年度事業報告…………… (37)

門 軍 兵 自

考 試 目

科目	題名	時間	備註
國文	作文	30分	
算術	算術	30分	
常識	常識	30分	
英語	英語	30分	
體育	體育	30分	
音樂	音樂	30分	
美術	美術	30分	
衛生	衛生	30分	
勞作	勞作	30分	
社會	社會	30分	
自然	自然	30分	
歷史	歷史	30分	
地理	地理	30分	
政治	政治	30分	
經濟	經濟	30分	
法律	法律	30分	
倫理	倫理	30分	
宗教	宗教	30分	
哲學	哲學	30分	
科學	科學	30分	
藝術	藝術	30分	
其他	其他	30分	

諏訪地方におけるカヤネズミの生息状況について 2

両角源美* 永富直子** 両角徹郎***

1. はじめに

暖温帯に主な分布域を持つカヤネズミ *Micromys minutus* は、本州の太平洋側では福島県以南、日本海側では石川県以西、四国、九州、隠岐諸島（島後、西ノ島、海士島）、淡路島、豊島、因島、対馬、天草下島、福江島（？）などに分布する。同一種は旧北区に広く分布する（金子，1994）という。

長野県下では、下伊那郡阿南町で幼獣と球巣が発見され（宮下，1979）、さらに、飯田市市川路および上伊那郡辰野町の天竜川河川敷でも球巣が発見されている（1995，秋山）。また、北佐久郡御代田町にも生息するという情報もある（吉野幸枝，1988）。かつて下伊那郡南部地域（深見池周辺）には記録があったが、現在では池畔の改良工事のためススキやオギ、ヨシはなく、分布が確認できなかった。しかし、天竜川畔から近年確認されている。

諏訪地方では1984年10月に、上川河川敷で林正敏氏（日本野鳥の会諏訪支部長）によって、オギの葉上に作られた球巣が発見され、カヤネズミの生息が確実になった。その後、諏訪教育会動物委員会の調査により1995年までに189個の球巣と多くのカヤネズミの生息個体を観察してきた。この調査結果については諏訪教育会の自然研究紀要第24～31集、および「成長」第35巻第1号に掲載されている。

諏訪地方での分布は本州内陸部では北限にあたり、標高も780m～800mと高標高地での分布であり、本種の生態の解明は意義深いものがあると考えられる。

この調査は10月から12月にかけて、主としてカヤネズミの球巣の分布を中心に行った結果をまとめ、同地で継続調査してきた結果と合わせて考察しようとしたものである。

2. 調査地及び調査の方法

(1) 調査区の設定

諏訪市内の河口から上流の茅野市内の神橋まで、6.5 kmの間に11の架橋があるので、便宜的に橋を境界として第1図に示すようにA～Jまでの調査区を設定した。河口近くの川幅は105mあり、中央の流水部分は34mで流水部の両側がオギ、ヨシの群落になっている。

(2) 調査区の環境

各区の河川敷部分の幅は右岸左岸共に20～30mで、堤防上は車道になっているため夏期の草丈の高くなるときには、堤防の斜面部分だけ草が刈り取られるが河川敷部分は植物

*茅野市八ヶ岳総合博物館館長 **茅野市八ヶ岳総合博物館学芸員 ***茅野市教育委員会

が大部分残っていた。

A区(480m) 一番河口に近い区で、左岸はヨシ、オギの密生する群落、右岸はアヤメなどの植栽耕地になっている。

B区(560m) 左岸はヨシを主体とする群落で占められている。秋にはアレチウリがヨシを覆うように繁茂する所もある。右岸はA区の続きの耕作地である。

C区(560m) 左岸は丈の高いオギの群落とススキ群落で占められている。右岸もほぼ同じ植相で、部分的にアレチウリやカナムグラが繁茂してオギを倒している所がある。

D区(600m) 両岸ともオギを主体とした群落で占められており、わずかにススキの群落が見られる。秋にはオギの草丈が4 m 近くになる所もある。この他アレチウリが繁茂している所もある。

E区(700m) 両岸とも流路に近い所はヨシ群落、河川敷はオギ群落とススキ群落がモザイク状に分布している。右岸は夏に刈り払いが行われる所と秋には草丈が2 m 近く成長する所もある。左岸上流はマレットゴルフ場になっている。

F区(420m) 左岸下流はE区の続きのマレットゴルフ場になっている。右岸は夏刈り払いが行われアカザ、オオブタクサなどの群落で占められている。

G区(700m) 両岸とも刈り払われている部分があり、草丈の高い部分は少ない。

H区(800m) 左岸はヨシ、オギ、ススキの群落が混交している。部分的に刈り払われた所があるが丈の高い所低い所と変化のある地区である。

I区(700m) 両岸ともススキの群落で占められているが、上川中流部に近く河川敷には礫が多く見られるようになって、植相は貧弱である。

J区(280m) 両岸ともススキ群落で占められていて、I区同様植相は貧弱である。

(3) 調査期間及び調査の方法

1996年10月から12月までの期間に4日間、1区ずつ河川敷の群落の中を2人でかき分けて縦に歩き、カヤネズミの営巣の発見に努めた。11月～12月はヨシ、オギ群落の中は見通しがきいて、球巣の発見には好都合であった。

発見した球巣は、育仔中のものを残し使用後のものは採集して、球巣の構造確認の資料にした。

球巣の分布は1996年の「成長」第35巻第1号に合わせて検討した。

調査に当たっては、球巣の作られている植物、球巣の高さ、育仔中の個体の有無及び仔数、主な巣材などを記録した。

3. 結果及び考察

(1) 営巣分布区域

上川河川敷におけるカヤネズミの営巣分布については第1表に示した。1995年までの調査と1996年の調査結果を比較すると、1996年には六斗橋と新六斗橋の間では球巣を発

見できなかったが、新六斗橋より上流の多くの区域には分布していた。また、左岸、右岸ともに分布しているが、球巢の数は左岸の方が多かった。区域によって調査日が異なっているけれども、球巢は3ヶ月くらいは残っているので、調査した球巢は秋の営巣数と考えてよい。

上川大橋から六斗橋までのA、B区の右岸は、アヤメの植栽が行われているため、オギやヨシがごくわずかで営巣できる環境ではないが、左岸はオギやヨシが背高く密生していて営巣には好条件と思われるけれども、球巢は発見できなかった。

上流の広瀬橋から江川橋のH区は茅野市地域に入り、草丈は諏訪市側よりも低いけれども営巣は1994、1995年と同様に1996年も行われていた。一部刈り払われていて、その跡にカヤネズミの巣が落ちていたこともあったので、刈り払いが行われなければさらに営巣数は増えるはずである。(第3図)

(2) 営巣植物について

多くの巣は、オギ草上に5～6本の葉を引き寄せて綴り合わせ、やや楕円形の球状に作られている。3本くらいの葉を寄せ集めると、相当強い風が吹いても巣が飛ばされたりくずれることはない。(第4図)

巣はこうして寄せ集めて綴った外材で外部を覆い、その内部には別の葉を運んで来て外材に絡み合わせ内材として球巢を厚くし、さらにその内部にはオギ、ヨシ、ススキの穂綿を敷きつめて断熱材にして内部へ寒風が入らないように作られる。このように巣は三重構造になっているので、9月中旬から10月中旬の気温が低下する時期でも出産・育仔ができる。(第5図)

1995年までの営巣植物は38個、オギ6個、ヨシ1個、ヨモギ1個、イネ科 sp. 1個で、ススキに多い傾向を示していたことと比較すると、1996年はオギに多いことが大きな変化である。(第2表)

(3) 球巢の高さ

1996年の計測では、球巢は表2のように100 cm～250 cmの範囲に作られており、過去7年間の計測結果の20～320 cmの範囲内にあった。1996年は極端に低い巣もなく、平均の高さは174 cmであり、過去7年間の平均の高さが58～134 cmであることと比較しても、かなり高い位置にかけられていたといえる。あまり高い位置に営巣すると餌とりのために上下する距離が長くなり、カヤネズミにとっては労力が大きくなる。さりとて地上に近い所ではヘビにねらわれる危険性があるので、草丈の適当な所を選んで営巣しているのではないかと推測される。

巣の高さはその年の河川の水量と関係があるであろうという推測があるが、1996年は夏秋ともに好天が多く、河川が増水してカヤネズミの巣が流される程の水量に達したことはなかったため、この推測には疑問がある。むしろ営巣植物の成長の違いによるのではないかとと思われる。

(4) 繁殖期

10月9日の車橋～飯島橋間のF区左岸のオギの中では、1巣に3頭の開眼した仔が入っていて、巣立ち前のやや小型の個体であった。巣をでた個体はオギを伝わってそろそろと移動できる程に成長していた。このことから、10月初旬は育仔期であることが確認された。上川の河川敷のカヤネズミは過去7年間では8月～12月に営巣が見られるが、最盛期は9月上旬～10月中旬であったので、1996年の結果もちょうどこの中に入っているとみてよい。したがって繁殖期は9月にあつたと考えられる。

九州では年2回春と秋に繁殖が行われ、夏は休むという(白石, 1988)。大部分の地域では春秋2回の繁殖であるが、稀に夏に行うものもあるという(金子ら, 1994)。

諏訪地方のカヤネズミの繁殖が秋に行われることは、営巣植物が大きく成長してきて葉をからめやすくなること、内材の穂綿がえられること、そのことによって巣内での幼体の保温が確保できること、秋には植物の種子が実り地上性昆虫が豊富になって、育仔に必要な餌条件が整うようになること、仔は1ヵ月あればほぼ成体になり越冬に参加できることと関係があるのではないかと思う(両角, 両角, 1996)。

3. まとめ

1984年～1995年まで、諏訪湖に注ぐ上川河川敷で行ったカヤネズミの分布調査に加えて、1996年も営巣調査を行った。

- (1) 新六斗橋～江川橋までのDEFGH区に合計16個の巣を発見した。巣は右岸より左岸に多かった。
- (2) 営巣に使われた植物はオギが最も多くススキ、ヨシの順であった。
- (3) 巣の高さは100cm～250cmで、平均高174cmであった。この高さは過去7年間の平均の高さより高かった。
- (4) 10月初旬に球巣内に仔がいたことから、繁殖は9月中と考えられる。

4. 参考文献

秋山幸也(1995)：天竜川水系の哺乳類調査結果，環境アセスメントセンター

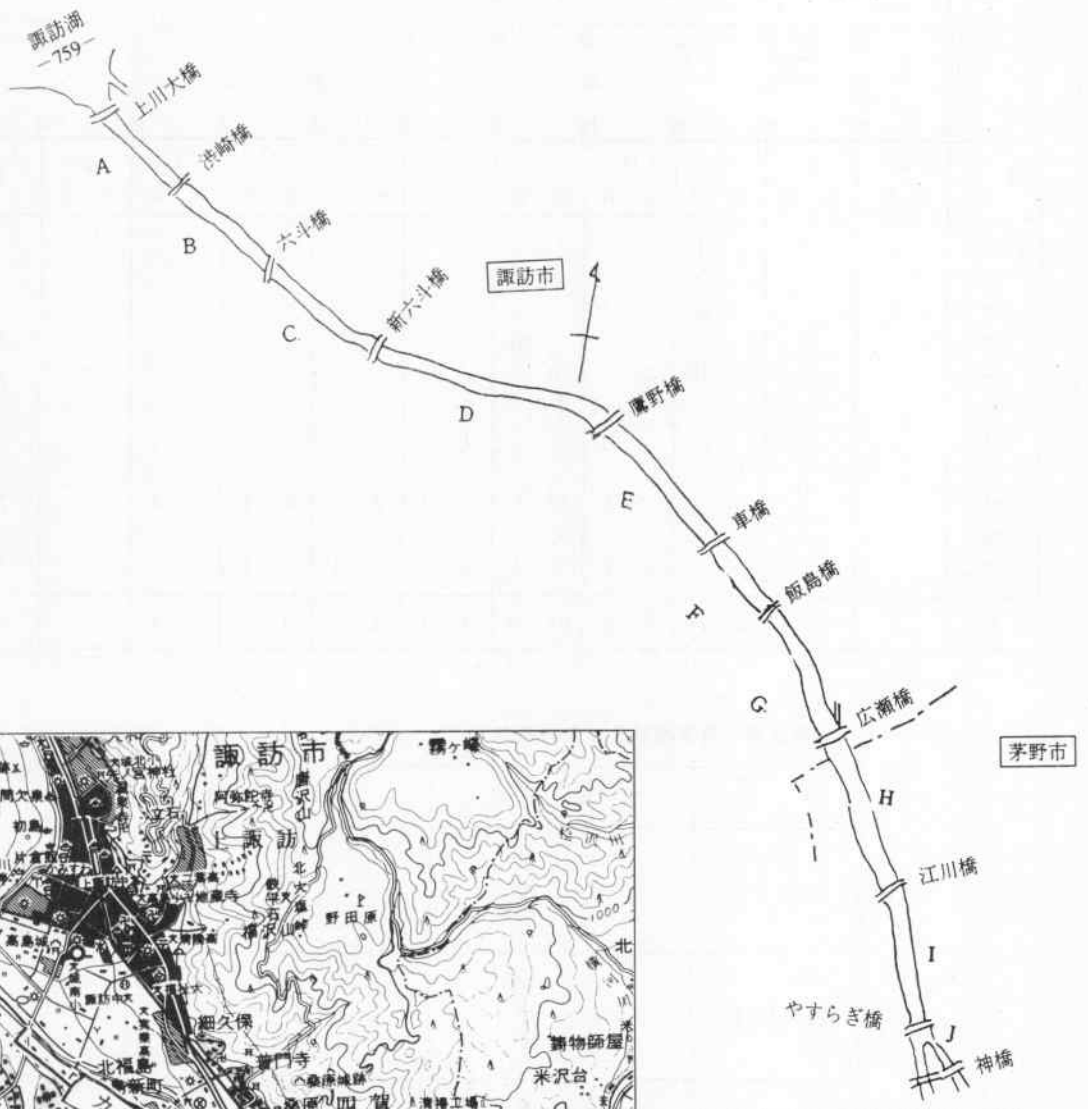
阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明(1994)：日本の哺乳類，東海大学出版会

白石 哲(1988)：カヤネズミの四季，文研出版

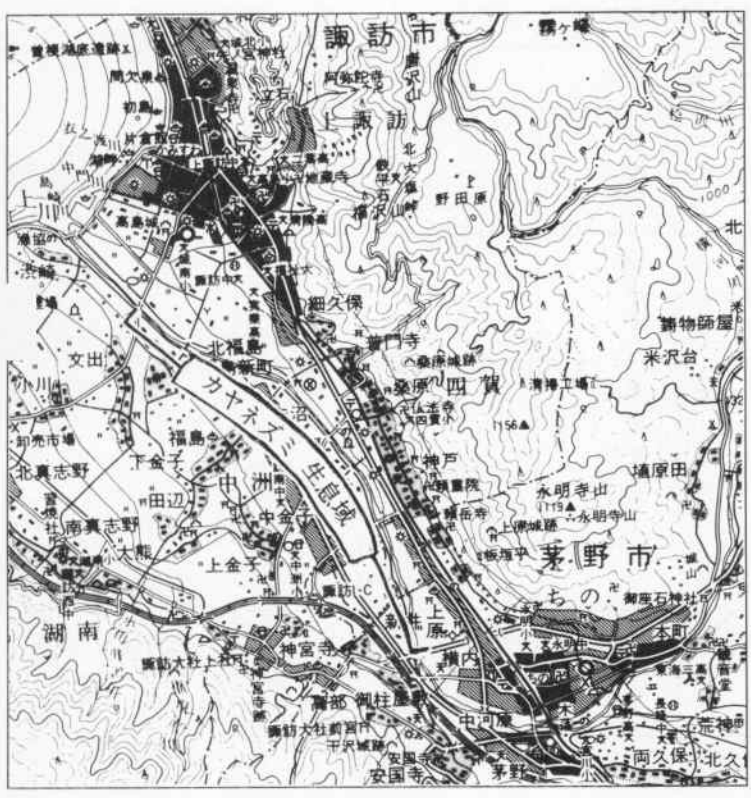
宮下 稔(1979)：下伊那地方の哺乳類について(第1報)，下伊那教育会自然紀要第2集

両角徹郎・両角源美(1966)：長野県諏訪地方におけるカヤネズミの生息状況について，成長第35巻第1号

吉野幸江(1988)：南佐久郡御代田町におけるカヤネズミについて，(私信)



第1図 上川河川の調査地の区分



第2図 カヤネズミの生息域

第1表 上川河川敷におけるカヤネズミの営巣分布

左=左岸 右=右岸

地区	A 上川大橋		B 渋崎橋		C 六斗橋		D 新六斗橋		E 鷹野橋		F 車橋		G 飯島橋		H 広瀬橋		I 江川橋		J やすらぎ橋		計
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右			
1984年					1																1
85					1																1
87					8																8
88										61											61
89					16	15	3		15												49
90									3			1									4
91											4										4
92					1																1
94					3	2		1	39	1		2	2		1	1			1		53
95									2			1	3		1						7
96							2	1	5	1	3		1		2	1					16
計					20	27	5	2	64	63	8	3	5	1	4	2		1			205

第2表 営巣植物及び巣の高さ

月 日	営 巣 植 物	巣の高さ (cm)
10月9日	オギ	185
	オギ	170
	オギ	160
11月26日	オギ	180
	オギ	210
	オギ	250
12月10日	オギ	210
	オギ	180
	オギ	190
	オギ	130
	オギ	100
	ヨシ	170
	ヨシ	150
12月26日	ススキ	180
	ススキ	140
	ススキ	地面に落ちていた
平均		174



第3図 広瀬橋～江川橋左岸のオギ群落中に作られた
カヤネズミの球巣(中央)。手前は刈り払われ
た部分。1996.12.24



第4図 巣から顔を出したカヤネズミ
車橋～飯島橋左岸のオギ群落
1996.10.9



第5図 カヤネズミの巣材
1996.10.9
左から外材, 中材, 内材(穂綿)

上川河川敷におけるオオヨシキリ類の 巣の分布について

永 富 直 子*・両 角 源 美**

1. はじめに

オオヨシキリ *Acrocephalus orientalis* (図1)は、全国の水辺に密生するヨシ原で繁殖する、縄張性の大変強い鳥である。諏訪湖に注ぐ上川の河川敷のヨシ原にも多くの個体が繁殖する。コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps* (図3)は、本州中部以北のヨシ原や山地の草原、高原に渡来する。諏訪地方では霧ヶ峰高原が代表的な繁殖地であるが、上川河川敷でも少数繁殖している。

これらはウグイス科オオヨシキリ属の鳥で、4月下旬から5月中旬にかけて日本へ渡来し、9月から10月ころまでに渡去する夏鳥である。ともに、イネ科など草本類の茎・葉・穂などを巣材に、ヨシや草本の茎などにコップ型の巣をかける(図2)。

本調査は、諏訪市から茅野市にかけての上川河川敷において、オオヨシキリとコヨシキリの巣の分布を調べたものである。それらの巣材や営巣環境の知見と併せて報告する。



図1 オオヨシキリ
(諏訪市上川/撮影 花岡幸一)



図2 調査区(V区)で発見
したオオヨシキリの巣



図3 コヨシキリ
(霧ヶ峰/撮影 阿部正則)

2. 調査地

調査は、諏訪市から茅野市にかけての上川河川敷で行った。上川は諏訪湖に注ぐ1級河川で、調査した河川敷の幅は左岸右岸共に20～30m、調査地付近の標高はおよそ760mである(図4)。

河口からおよそ1.8Km上流の新六斗橋から、茅野市の江川橋までの約3.7Kmの間に、橋を境界としてI～Vの調査区を設定した(図5)。

*茅野市八ヶ岳総合博物館学芸員 **茅野市八ヶ岳総合博物館館長

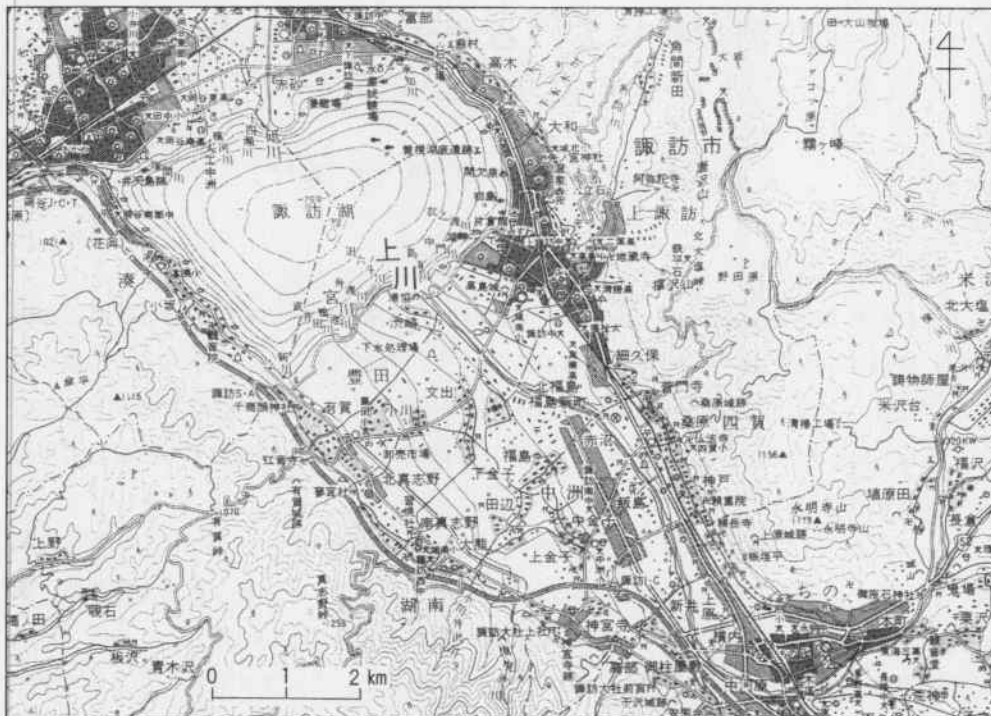


図4 調査地の上川下流とその周辺

- ・ I区(距離 1140m) 両岸ともオギの群落が多分を占めており、部分的にヨシの群落が混じる。わずかにススキの群落もみられる。全体的に草丈が約3m以上で高く、密生している。
- ・ II区(距離 700m) 左岸の鷹野橋寄りにはヨシが多く、中ほどから上流はオギが多い。車橋近くはマレットゴルフ場になっている。右岸は、ヨシ群落が水際から河川敷中央よりも外側まで広く占めているが、堤防に近い部分には、オギ群落またはススキ群落が分布している。一部は夏に刈り取りが行われた。
- ・ III区(距離 420m) 左岸はII区から続くマレットゴルフ場になっている。右岸は河川敷のほぼ中央から川に近い側はヨシ、堤防寄りにはオギの群落になっている。
- ・ IV区(距離 660m) 両岸ともオギの群落が主体で、何箇所か部分的に刈り取られており、全体に草丈は低い。
- ・ V区(距離 760m) 左岸にはヨシ、オギ、ススキの各群落がモザイク状に分布している。右岸は部分的に刈り取りが行われ、草丈の高い部分と低い部分が混じっている。両岸の水際の所々にカワヤナギがはえており、1996年にゴイサギが営巣した。

3. 調査方法

1996年の11月から12月に3回調査を行った。片岸の河川敷を川に平行に2名で歩き、コップ型の巣を探した。発見した巣は、その位置と、かけられている高さ・植物の種類を

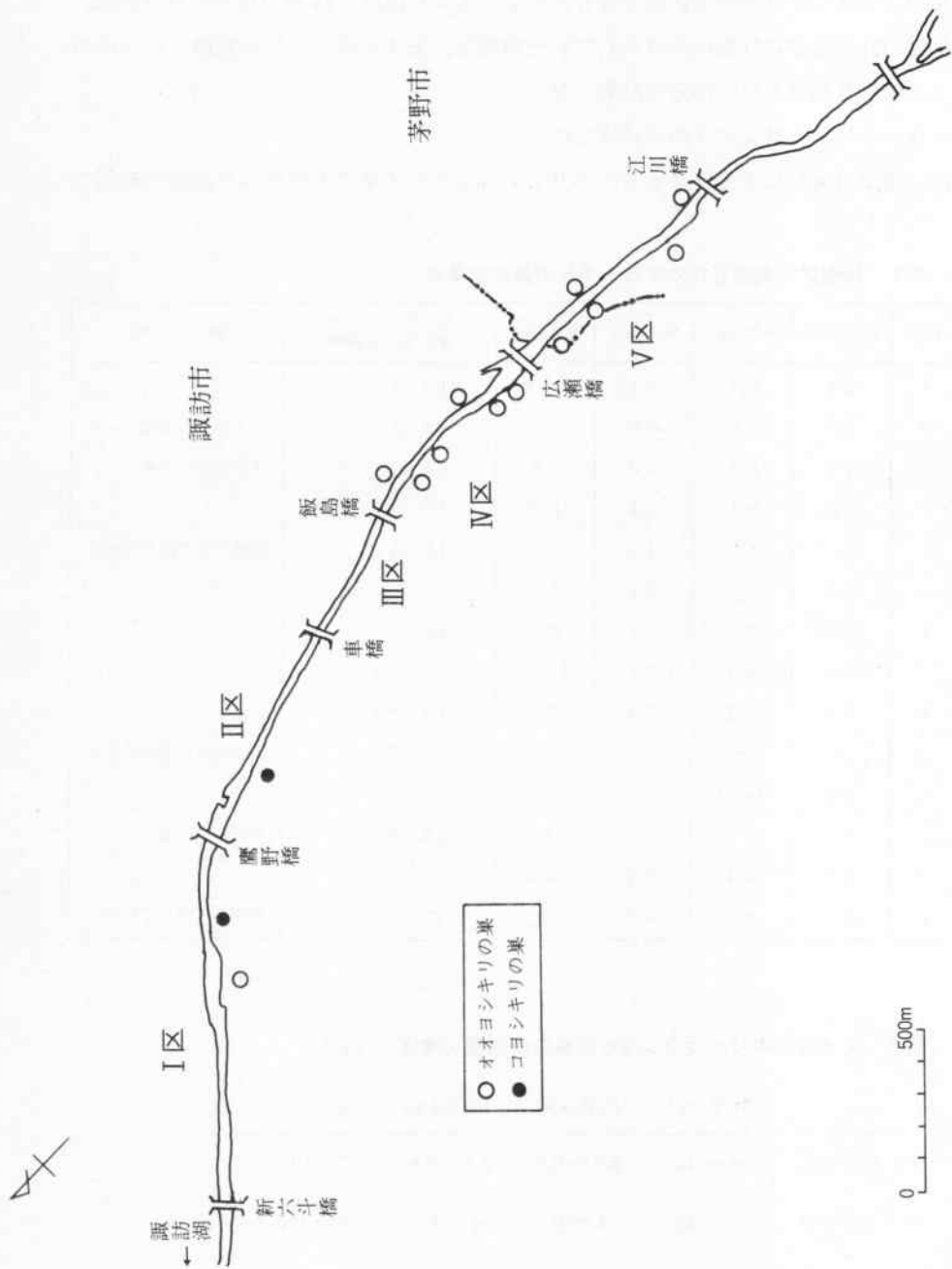


図5 調査区とオオヨシキリ類の巣の分布

記録し、その植物を折り取って採取し持ち帰った。そして巣の内径、外径、内側の深さ、全体の高さを計測した。

4. 結果および考察

各調査区で発見した巣の分布状況を図5に示す。I～V区に、14個の巣が発見された。

巣の各部の計測値および巣がかけられていた植物を、表1に示す。巣が破損したりゆがんでいて正確に計測できない部分は計測しなかった。

1) オオヨシキリとコヨシキリの巣の同定について

表2は、清棲(1966)による、オオヨシキリとコヨシキリの巣の各部位の計測値の範囲で

表1 調査区で発見したオオヨシキリの巣の計測値

調査区	記号	内径(mm)	外径(mm)	深さ(mm)	高さ(mm)	かけられていた高さ(m)と植物	備考
I	a	61	87	54	110	1.3 ヨシ	
	b	45	76	40	82	0.9 ヨモギ	コヨシキリの巣
II	a	43	68	40	65	1.5 林ハコヅク	コヨシキリの巣
IV	b	60	91	54	80	1.0 ヨシ	底部がくずれている
	c	56	82	49	—	1.0 ヨシ	
	d	59	94	59	76	1.7 ヨシ	
	e	62	85	57	52	1.0 ヨシ	
	f	64	94	51	115	1.5 オギ	
	g	62	95	59	72	1.0 オギ	
	a	—	—	—	—	ヨシ	
V	b	60	103	62	68	1.3 ヨシ	ゆがんでいる
	c	—	—	—	105	1.4 ヨシ	
	d	61	84	60	88	1.6 ヨシ	底部がくずれている
	e	60	91	57	—	1.8 ヨシ	

表2 オオヨシキリとコヨシキリの巣の計測値(清棲, 1966)

	外径(cm)	内径(cm)	深さ(cm)	高さ(cm)
オオヨシキリ	6-12	5.5-9.5	5.8-8.5	7-15
コヨシキリ	7-12	4-6	4-6	6-10.5

ある。これによると、コヨシキリの巣の外径および高さの計測値の範囲は、オオヨシキリのそれに含まれてしまうが、内径および深さについては、コヨシキリの巣の最大値とオオヨシキリの巣の最小値がわずかに重なる程度である。

そこで、今回採取した巣の内径および深さの計測値を図6に示した。これにより、明らかに他の巣に比べて内径と深さが小さく、かつ表2のコヨシキリの巣の計測値の範囲に合致する2つの巣（I区b、II区a）をコヨシキリの巣、他は全てオオヨシキリの巣と判断した。図7にI区のa（オオヨシキリの巣）とb（コヨシキリの巣）を示す。

2) オオヨシキリの巣の分布状況と営巣の環境

オオヨシキリの巣と判断した11個のうち、多く分布していたのはIV区(6個)とV区(4個)であった。この2区に共通する植物の相観として、・オギの方がヨシよりも多く分布している。・所々に、刈り取りにより草丈が約2m以下の低い部分や、裸地になっている部分があり、オギやヨシは密生していない、などがあげられる。

逆に巣が見つからなかったI区右岸はオギの群落が主体で、草丈が約3m以上と高く密生している。またII区とIII区の右岸は、川沿いにヨシ、堤防側にはオギが密生している。

以上のことから、上川河川敷においてオオヨシキリが営巣しやすいのは、ヨシやオギが、十分成長し広範囲に密生した群落でなく、刈り取りによるあまり草丈が高くない部分や、裸地など、開けた部分がパッチ状に分布しているような環境であると考えられる。

表1に示したように、オオヨシキリが巣をかけた植物はヨシの方がオギよりも多いが、この理由は不明である。

3) コヨシキリの営巣環境について

本調査で発見されたコヨシキリの巣は2個のみであるためはっきりしないが、ヨシやオギが優占するような場所でも、それら以外の草本に営巣する傾向があるとも考えられる。

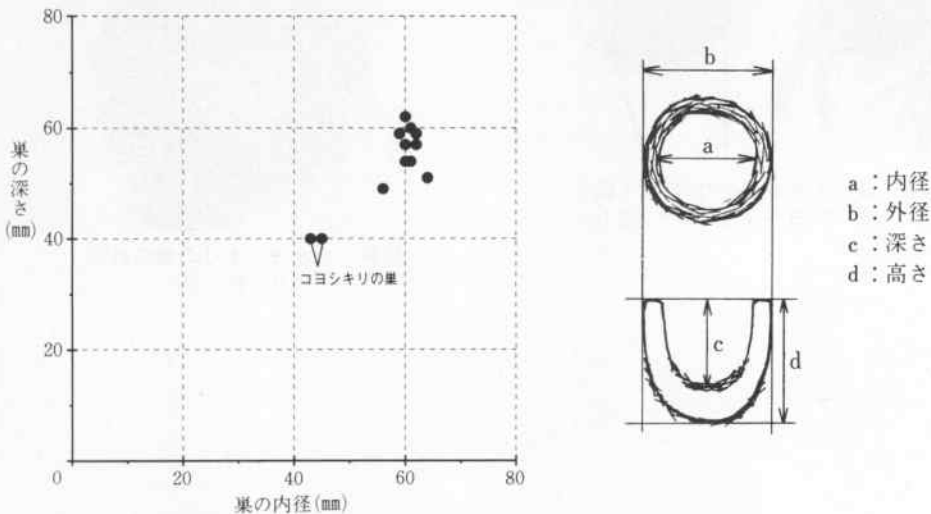


図6 発見した巣の内径と深さ

4) 巢材について

コヨシキリ、オオヨシキリともに巢の内側には、イネ科草本の種子のついていない穂が使われている(図8)。外側には、それらに加えてイネ科と思われる草本の茎、葉、根が使われている。ポリエチレンひもも、量の差はあるが、ほとんどの巢に用いられていた(図9)。獣毛(犬と思われる)や化繊の綿状のものが混じっている巢がいくつかあった。釣り糸が数本使われた巢が2個あった。

図10～13にみるように、IV区のオオヨシキリの巢はV区に比較して、ポリエチレンひもが多く使われていたが理由は不明である。

発見された巢には1995年以前に作られたものも含まれている可能性がある。巢材の種類やそれらの割合を知るには、繁殖後のできるだけ早い時期に調べる必要がある。今後の課題としたい。

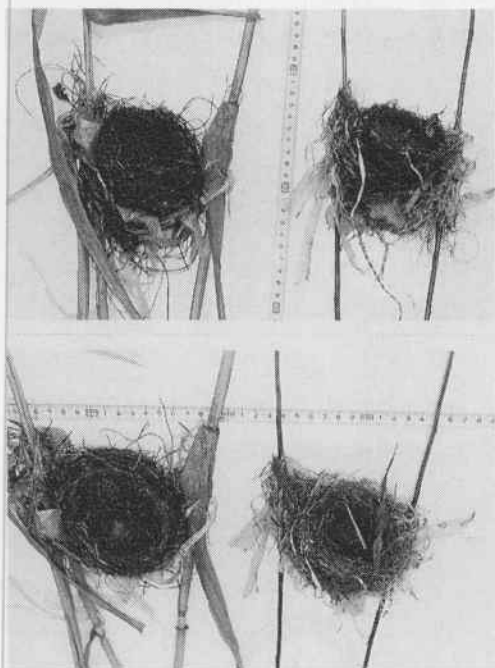


図7 左:オオヨシキリの巢(I区a)
右:コヨシキリの巢(I区b)



図8 オオヨシキリの巢の内側



図9 オオヨシキリの巢の外表面
(図8と同じ巢)

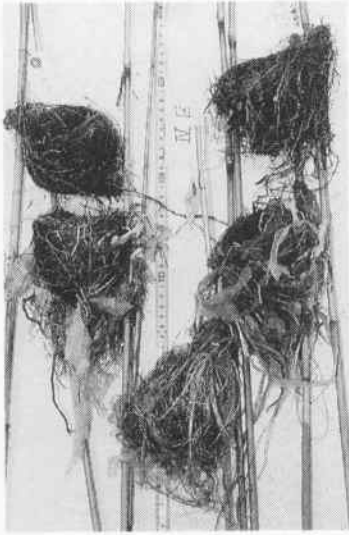


図10 ◀・図11 ▼ IV区のおオヨシキリの巢
ポリエチレンひもが多く使われている

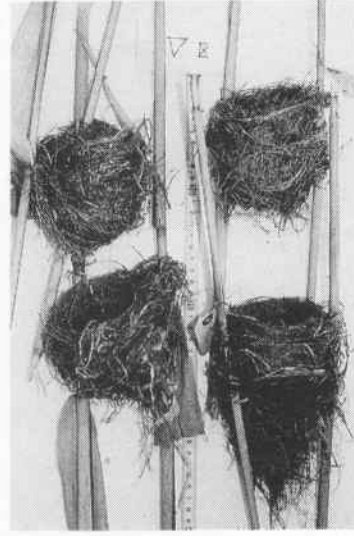
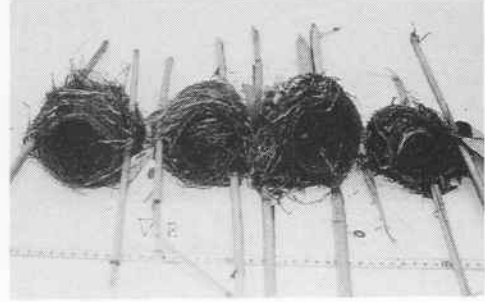
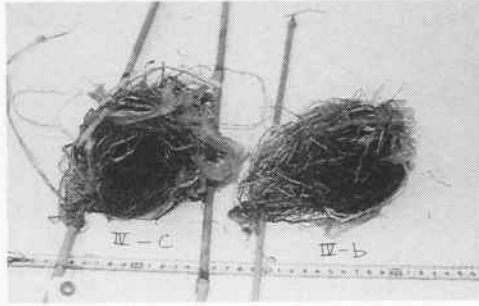


図12 ◀・図13 ▼ V区のおオヨシキリの巢



5. 引用文献

清棲幸保 1966. 野鳥の辞典：192, 232-233. 東京堂出版.

100-100000-100000

100-100000-100000

100-100000-100000

100-100000-100000

茅野市八ヶ岳総合博物館所蔵の ナガレタゴガエル標本について

下山良平*

1. はじめに

ナガレタゴガエル (*Runa sakurai*) は、1990 年に新種記載されたばかりのアカガエル科の 1 種で (Matsui & Matsui, 1990), まだ水も冷たい早春に山間の溪流で繁殖すること、繁殖期になるとオスの体側や太ももの皮膚がピロピロに伸張することが著しい特徴である。本種が記載されてから 7 年が経過したが、その間本種の生息地に関する新しい知見はほとんど追加されていない。現在までに分かっている生息地は、関東西部から近畿地方にかけてのごく限られた地点にすぎない。このように既知の生息地が限られているのは、(1) ナガレタゴガエルの存在そのものが知られてこなかったこと、(2) 非繁殖期にはオスの皮膚は伸張しないため、ふつうのアカガエル (ヤマアカガエル) やタゴガエルとの区別が必ずしも容易ではないこと、(3) 繁殖が行われるのが早春の山間の溪流の中であるため、調査のために繁殖場所に近づくのが容易ではないこと、(4) 仮に発見されても、その記録を公表するような雑誌がない (分布記録は、ふつう学会誌には受理されない。かつて動植物に関する短報を発表する重要な場であった「採集と飼育」「日本の生物」などは、現在は存在しない) こと、などの理由によるものである。本種の詳細な分布状況や生態を明らかにしていくためには、個々の採集記録を何らかの方法で公表していくとともに、標本を博物館などの公的機関に残していくことが不可欠である。

長野県内では、本種はこれまで木祖村の塩沢、松本市の薄川、丸子町の内村川、南信濃村の遠山川で採集された記録がある (下山, 1996)。しかし、いずれの標本も県外の博物館や大学へ流出しており、県内の公的機関で本種の標本を見ることはできなかった。

筆者はこのほど、長野県南部の 2 地点で採集されたナガレタゴガエルの標本を検査する機会を得た。いずれも、これまでに本種の生息が知られてこなかった地点で採集されたものであり、公的機関で保管されるべき貴重な標本である。そこで、それらの標本を八ヶ岳総合博物館に寄贈するとともに、捕獲時のデータを個々に記載しておきたい。

報告に先立ち、記録の公表および標本の管理について一任いただいた (株) 環境アセスメントセンターの秋山幸也氏に厚く御礼申し上げたい。

2. ナガレタゴガエルの特徴と生態 (前田・松井, 1989; 草野, 1996より)

(1) 特徴と分布

体長 40 ~ 60 mm の茶褐色のカエルで、一見ごく普通のアカガエル (ヤマアカガエル) に

*茅野市立米沢小学校教諭・平成 8 年度八ヶ岳総合博物館専門委員

似る。近縁種のタゴガエルと同様、のどから胸にかけて黒褐色の小点が密に広がり黒っぽく見えることによって、ヤマアカガエルとは区別できる。また、タゴガエルとは、本種の方が後肢が長く、かつ水掻きが著しく発達することで区別できる(図1)。さらに、先にも述べたように、本種では繁殖期にオスの体の皮膚がピロピロに伸張し、まるで枯れ草のような姿になることも著しい特徴である。既知の分布図は、関東西部から近畿地方にかけての本州中部であるが、既知の生息地はごく限られている(図2)。これまでのところ、ナガレタゴガエル、タゴガエルとも、諏訪地方からは確認されていない。

なお、本種の名前の由来であるが、タゴガエルに似た溪流性のカエルであることから、ナガレタゴガエルの名が付けられた。ちなみに「タゴ」という名は、両生類学者の田子勝弥氏にちなんだものである。また、学名の *sakurii* は、このカエルを発見した桜井淳史氏に献名したものである。

(2) 生態

おもに標高 1000m までの山地帯の森林に生息する。晩秋には付近の溪流の中に入り、石の下に潜り込んで越冬する。2~4月頃、活動を再開し、溪流の流れの中で繁殖する。卵は直径 3.1~3.6 mm、産卵数は 50~170 個ほどである。孵化した幼生(オタマジャクシ)は、その年の初夏には変態を終えて上陸する。

3. ハヶ岳総合博物館に寄贈された標本について

(1) 1♂, 駒ヶ根市中田切川(図3A), 28. XI. 1996, 百瀬剛採集

中田切川は、中央アルプスの空木岳(2860m)を水源とする、天竜川の支流である。標本個体は、この川の標高約 900m の地点で、流下昆虫採集のためのトラップ(幅 1 m 弱のサーパーネット)を流路に仕掛けておいたところ、その中に入っていたとのことである。付近は川幅 10m 弱で水量が多く、大小の淵が点在していたという。そして、捕獲時の水温は 5.7℃であったという。

このオスの皮膚は著しく伸張しており、水掻きも正しく本種の特徴を示していた。

(2) 1♂, 南信濃村梶谷川支流(図3B), 5. IV. 1996, 沢島拓夫採集

梶谷川は南アルプス深南部の鶏冠山(2240m)を水源とする、遠山川の一支流である。標本個体は、その梶谷川の左岸に合流する支流の流路脇の水たまり(標高約 500m)で、水に浸かった状態の大きな石の下から採集されたという。

標本を検する限りではこのオスの皮膚はほとんど伸張しておらず、体型はタゴガエルに近い。また、水掻きの形状は、Matsui & Matsui (1990)によって図示されたナガレタゴガエルのものよりもやや発達が悪い。しかし、タゴガエルのそれよりは明らかに発達しているため、ナガレタゴガエルと同定された。

4. おわりに

この小文では、八ヶ岳総合博物館に寄贈されたナガレタゴガエル標本について記載した。本種のような山地性のカエル類は、人里へ降りて分布を拡大することはほとんどないため、生息する山塊ごと、水系ごとに隔離されやすく、遺伝的に分化する可能性が高い。早春に水流中で繁殖するという特異な習性とも併せて、本種は進化生物学の研究材料として非常に貴重な存在である。しかし、残念なことに県内における本種の分布状況はまだまだ十分に分かっていないのが実状である。

バブル経済が崩壊したとはいえ、現在も県内各地において治山事業や森林伐採、リゾート開発などが盛んに行われている。山奥で人知れず生息しているナガレタゴガエルが、人々にその存在すら知られないまま姿を消しつつある、あるいは既に姿を消してしまった地域もあるのかもしれない。今後、早急に未調査の水系、山塊での詳しい生息調査を行って本種の生息状況をよりはっきりさせるとともに、様々な開発の際にはこのカエルと私たちとの共存に向けての提言をしていくことが望まれる。

5. 引用文献

- 草野保 (1996). ナガレタゴガエル. 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏 (編) 日本動物大百科第5巻, pp.34-35, 42-43. 平凡社 (東京)
- 前田憲男・松井正文 (1989). 日本カエル図鑑. 文一総合出版 (東京). 206pp.
- Matsui, T & M. Matsui (1990). A new brown frog (genus *Rana*) from Honshu, Japan. *Herpetologica* 46 (1):78-85.
- 下山良平 (1996). ナガレタゴガエルの長野県内第4の産地について. 自然研究紀要(31) : 159-160. 諏訪教育会 (諏訪).

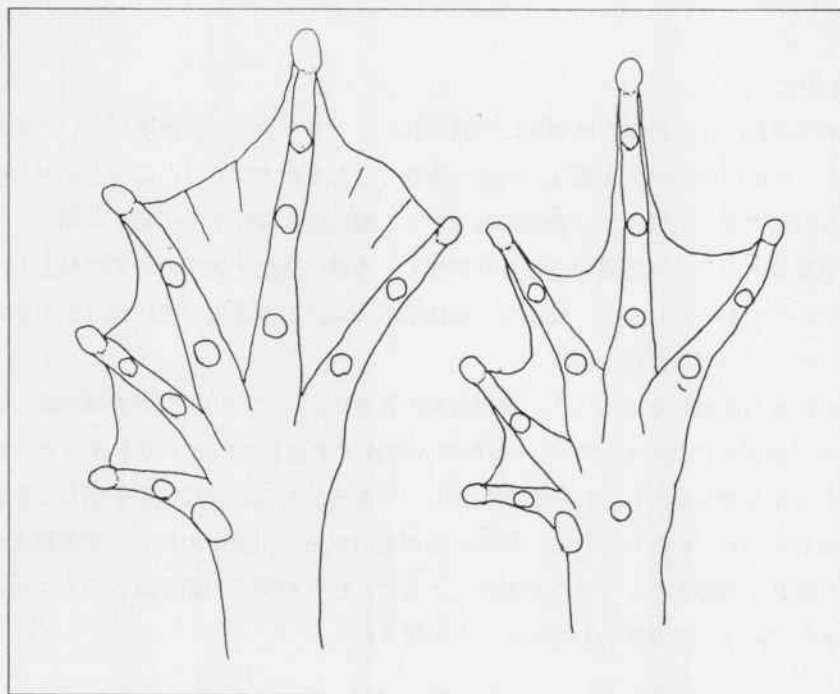


図1 後肢水掻きの比較 (Matsui&Matsui, 1990 を改写)
 左：ナガレタゴガエル, 右：タゴガエル

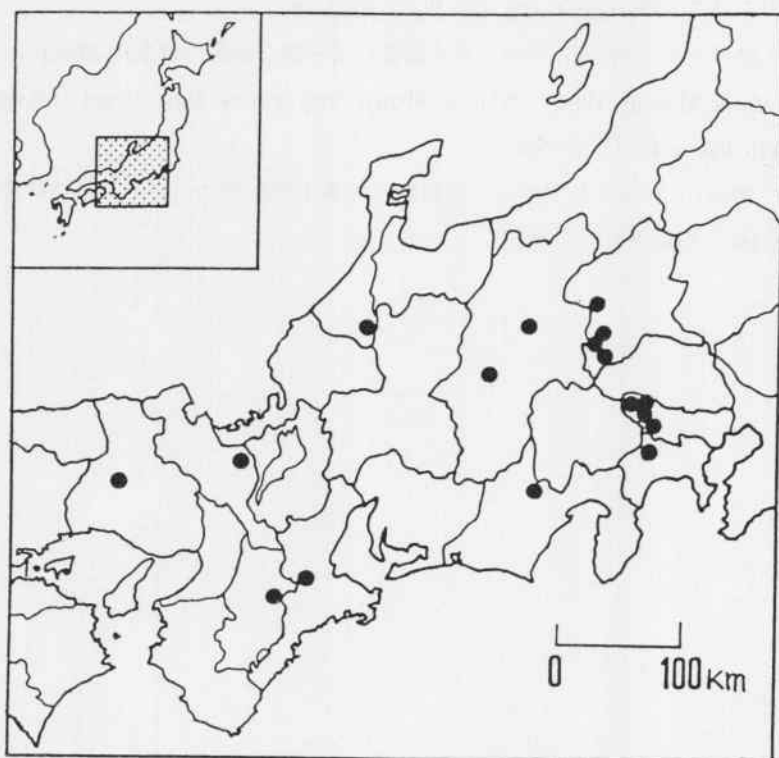


図2 原記載された時点での既知のナガレタゴガエル生息地
 (Matsui&Matsui, 1990 を改写)

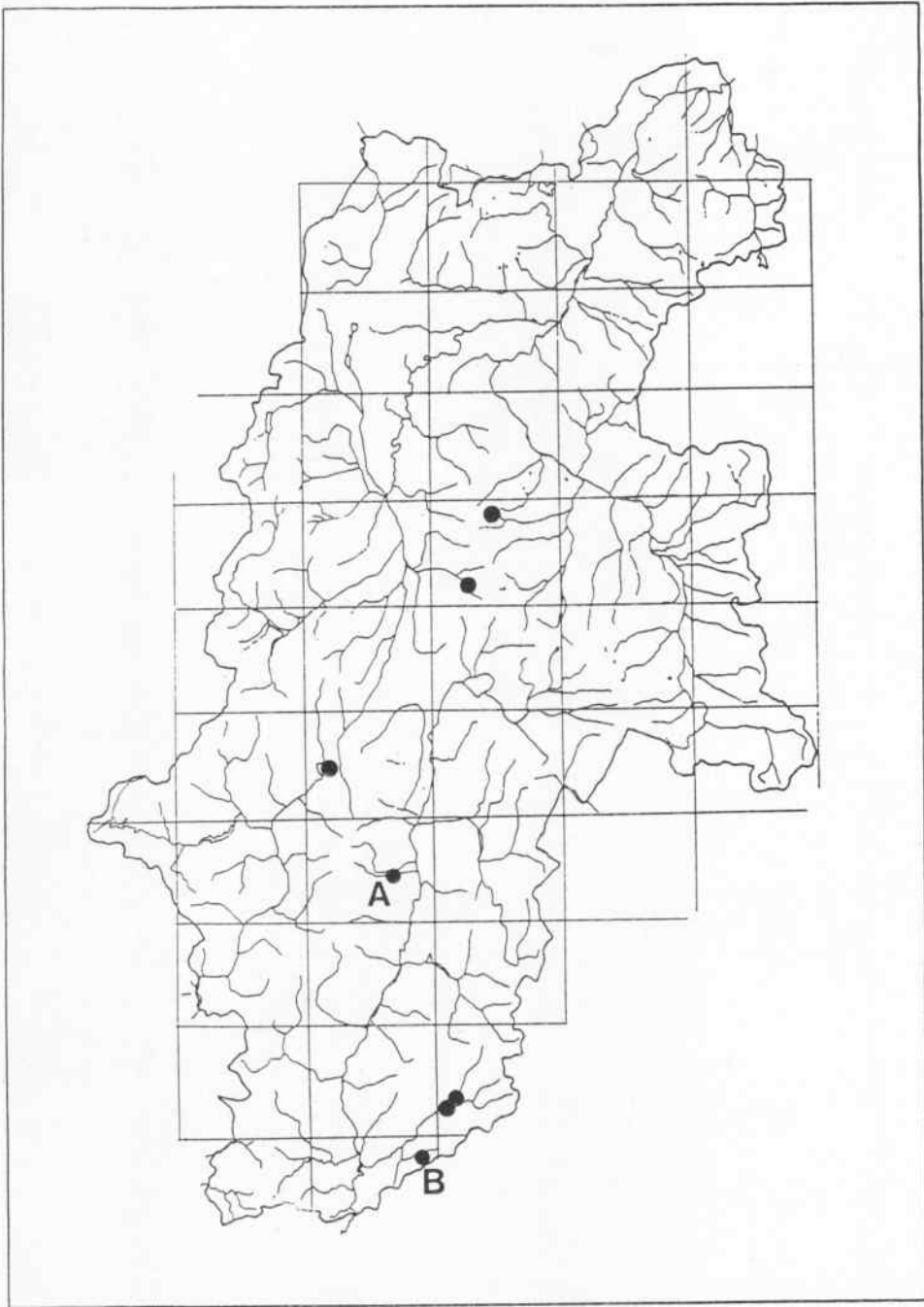


図3 長野県内のナガレタゴガエル生息地
A：中田切川，B：梶谷川

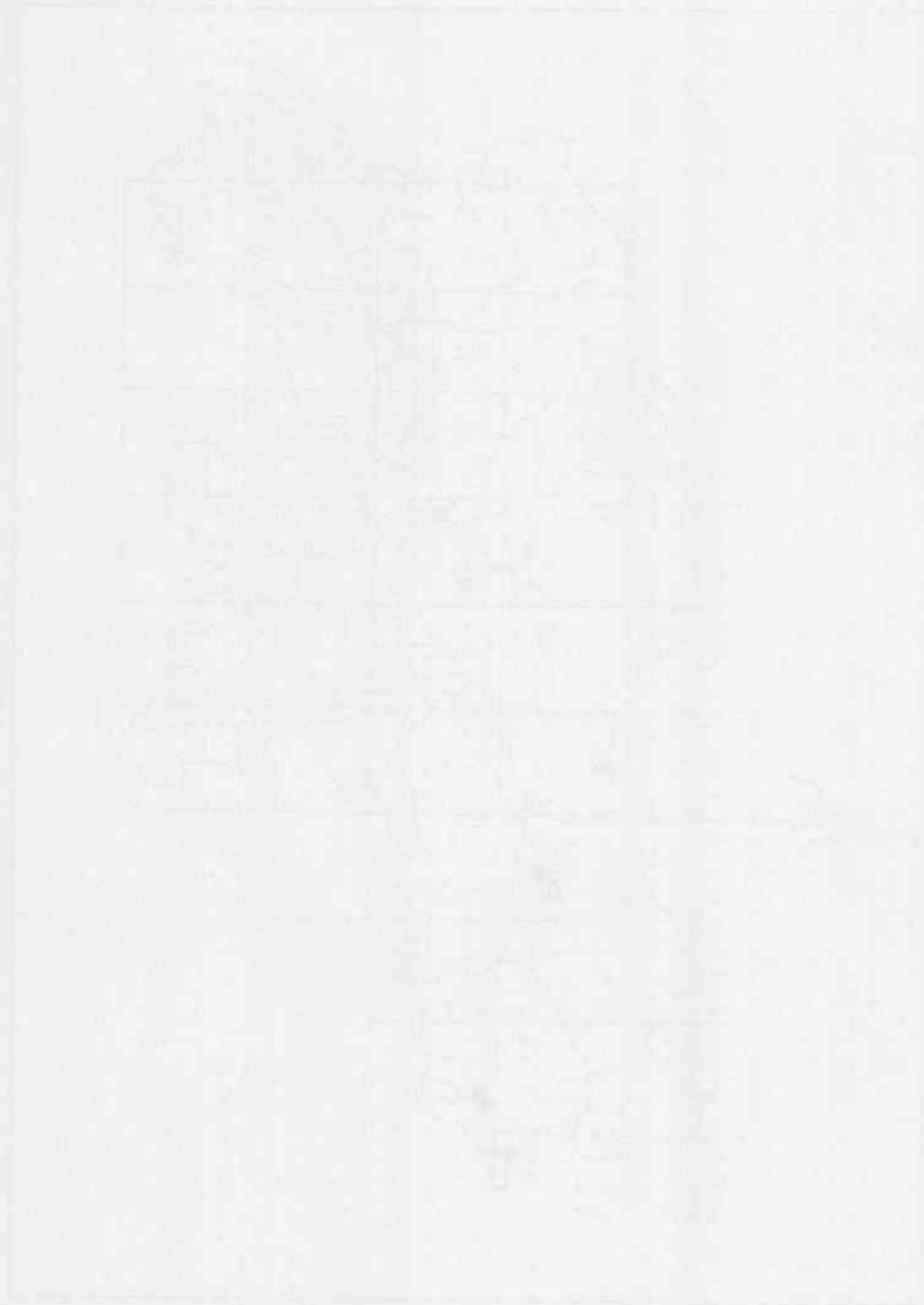


PLATE 10 - THE GREAT WALL
OF CHINA

茅野市内で採集した大型トンボ類について (第1報)

下山良平*

1. はじめに

茅野市内には、白樺湖(北山)、蓼科湖(同)、竜神池(豊平)、御射鹿池(湖東)、鏡湖(宮川)など、大小さまざまな湖沼が点在している。また、八ヶ岳連峰や車山、入笠山などを水源とする清冽な溪流や湧き水も、市内の随所に見られる。これらの湖沼や溪流の水を利用した稲作も盛んで、春先から夏にかけて市内の水田地帯には広大な水面が広がる。そして、これらの水環境は、幼虫期を水中で過ごすトンボ類にとって格好の生息地となっている。

茅野市内におけるトンボ類の生息状況については、これまでにいくつかの報告がなされているが(小池ほか, 1978を参照)、それらはいずれも1970年代以前の調査記録である上、調査の行われた地点が白樺湖、鏡湖、北八ヶ岳湖沼群に限られている。そのため、現在、茅野市内にどのような種類のトンボ類が生息しているのか、それぞれの種類の分布状況や個体数の多寡はどうかなど、ほとんど分かっていないのが実状である。茅野市産のトンボ相を明らかにするためには、市内各地でくまなく採集を行い、その記録を集積していくこと、採集した個体を標本として博物館などの公的機関に残していくことが不可欠である。しかし、同市の自然学習の拠点である八ヶ岳総合博物館においても、これまで市内産のトンボ類の標本は全く収集されてこなかった。

そこで筆者は、同博物館の展示用標本の作製を目的として、1995年より茅野市内各地でトンボ類の採集を行っている。1995・1996年の両年は、その第一歩として、対象を「ヤンマー族」(松岡・塩野, 1993)にしぼって採集を試みた。この「ヤンマー族」という名前はあくまでも便宜的なもので、ヤンマ科、オニヤンマ科のすべての種類と、サナエトンボ科のうちコオニヤンマ・ウチワヤンマなど和名に「ヤンマ」がつくもの、そしてオニヤンマと間違えられることも多いヤマトンボ科のオオヤマトンボなどを指している。この小文では、これまでに筆者が採集した個体に基づき、茅野市内に産する「ヤンマー族」について記載をしたい。採集を試みた範囲はごく限られており、しかも実際に採集できた個体数も必ずしも十分とは言えないが、茅野市内のトンボ相の現況を明らかにするための一資料となれば幸いである。

2. 採集方法

トンボ類の採集は、1995・1996年の7月から9月にかけて行った。主な採集地は、宮

*茅野市立米沢小学校教諭・平成8年度八ヶ岳総合博物館専門委員

川地籍の鏡湖，豊平地籍の竜神池，米沢地籍から上原地籍にかけての永明寺山一帯，米沢小学校の周辺で，日中または夕方に水辺をゆっくり歩いてトンボ類の発見に努めた。発見したトンボ類のうち，「ヤンマー族」と思われる大型の個体について，捕虫網で捕獲を試みた。同一地点で同じ種類の個体が多数捕獲された場合には，種名を確認した後，標本用の個体数を除いて放逐した。標本作製にあたっては，アセトンもしくはシリカゲルを用いて，できる限り短期間で乾燥させるよう努めた。ここに記載したすべての種類の標本（必ずしもすべての個体ではない）は，茅野市八ヶ岳総合博物館に保管されている。

3. 採集されたトンボ類

以下の記載では，採集場所，採集個体数，日付，捕獲時の状況の順で記してある。学名は，石田ほか（1988）の「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」に従った。

ヤンマー科

(1) ギンヤンマ *Anax parthenope julius*

①米沢北大塩，1♂. 28- VIII -1995

本種は，北海道から南西諸島にいたる主要島嶼のほとんどと，朝鮮半島から中国全域，台湾，蘭嶼島，香港などに広く分布している（石田ほか，1988）。おもに平地や丘陵地の池沼で繁殖する。これまでに筆者が茅野市内で採集したのは，米沢小学校の校舎内に飛び込んできたオス1頭のみであるが，このほか竜神池でも本種と思われるオスが数頭なわばり飛翔しているのが目撃された。また，海野（1993）によるポケット図鑑「昆虫」の中にも，「長野県茅野市」で撮影した産卵中のギンヤンマの写真が掲載されているので，市内における生息地はかなり多いことが予想される。しかし，小池ほか（1978）がかつて本種を確認したという鏡湖では，今回本種は全く確認されなかった。実際，かつては県内の平地の湖沼でごく普通に見られた本種も，水質の悪化に伴って各地で著しく個体数が減少している（信濃毎日新聞編集局，1986）といわれており，鏡湖をはじめとする市内での本種の動態が気にかかるところである。

(2) ミルンヤンマ *Planaeschna milnei*

①米沢北大塩，1♂. 25- IX -1995

本種は日本特産種で，北海道南部から奄美諸島にかけて分布するが，北海道および東北北部では，産地はきわめて限られる（石田ほか，1988）。山間の森林に囲まれたやや陰湿な溪流で繁殖する。黄昏活動性が強く，おもに早朝と夕方の黄昏時に飛翔する。筆者が採集した個体も，黄昏時に米沢小学校の校舎内に偶然飛来した個体で，この個体が何処で発生したのかは不明である。筆者はこのほか，竜神池近くの三井の森でも本種と思われる

個体を1例目撃している(1996年8月)。

(3) オオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava*

①竜神池, 1♂. 29-VII-1996. ②永明寺山, 2♂♂. 24-VIII-1996(米沢側の道路脇にある貯水池). ③永明寺山, 2♂♂1♀. 31-VIII-1996(山頂駐車場脇の人工池).

本種は日本特産種で、北海道・本州・九州の山地の池沼に生息する(石田ほか, 1988)。近縁なルリボシヤンマが比較的小さな池や湿原で繁殖するのに対して、本種は大きく深い池沼で繁殖する。今回の調査では、竜神池や永明寺山できわめて多数の個体の飛翔や産卵が確認された。しかし、小池ほか(1978)によって本種が記録されている鏡湖では、かなり時間をかけて調査したにもかかわらず1個体も確認されなかった。その原因が水質の変化によるものであるのか、釣り用の魚類放逐によるものかは不明である。

オニヤンマ科

(1) オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*

①米沢鑄物師屋, 1♂. 12-VII-1996. ②中大塩, 1♂. 5-VIII-1996. ③永明寺山, 1♂1♀. 24-VIII-1996. ④米沢北大塩, 1♂. 24-VIII-1996.

わが国に生息するトンボ類の中で最大の種類である。南千島から南西諸島にかけて広く分布し、平地から山地にいたる小川や湧水で繁殖する(石田ほか, 1988)。筆者が茅野市内で本種を採集したのは上に示した4地点であるが、実際には市内の至る所で見られ、個体数もきわめて多い。

ヤマトンボ科

(1) オオヤマトンボ *Epopthalmia elegans*

①竜神池, 5♂♂. 28-VII~2-VIII-1996. ②鏡湖, 12♂♂. 3-VIII-1996.

北海道から南西諸島にかけて広く分布するが、北海道や東北地方では少なく、西南日本では普遍的に生息する(石田ほか, 1988)。また、同属の他種が主に東南アジア熱帯域に生息することから、南方系のトンボであると考えられる。平地や低山地の開放的な池沼に生息する。鏡湖および竜神池では、きわめて多数のオスが岸辺をパトロール飛翔しているのが観察された。小池ほか(1978)によれば、白樺湖にも本種が生息するというが、現在も生息しているかどうかは今後確認する必要がある。

サナエトンボ科

(1) ウチワヤンマ *Ictinogomphus clavatus*

①竜神池, 2♂♂. 30-VII-1996. ②鏡湖, 2♂♂1♀. 3-VIII-1996.

本州から九州にかけてと、朝鮮半島、中国北・中部、台湾、トンキンなどに分布しており、平地や丘陵地の深くて大きな湖沼に生息する（石田ほか、1988）。竜神池や鏡湖では、本種の個体数が非常に多く、岸辺の植物の先や水面から突出した竿の先にとまって静止している個体が観察される。小池ほか（1978）によれば、白樺湖にも本種が生息するというが、現在も生息するかどうかは今後確認する必要がある。

4. おわりに

この小文では、筆者が1995・1996年に茅野市内で採集した「ヤンマー族」について記載した。冒頭でも述べたように、今回の採集はごく限られた範囲において、対象を大型種にしぼって行ったものである。したがって、今回確認できた種類は、茅野市内に産するトンボ類のうちのごく一部にすぎない。たとえば、小池ほか（1978）は、1960年代に北八ヶ岳のいくつかの池沼で北方系種のルリボシヤンマを確認している。また、諏訪市の諏訪教育博物館には、1950年代に茅野市宮川と塚原で採集されたというカトリヤンマの標本が展示されている。いずれの地点も今回は未調査であるため、これらの種類が現在も茅野市内に生息しているかどうかは、今後の重要な課題である。

今回の採集では、小型のトンボ類は対象外としたが、かつてオオトラフトンボなど貴重な種類が茅野市内から記録されている（小池ほか、1978）ので、今後そうした種類の現在の生息状況も併せて調査していきたい。

5. 引用文献

- 石田昇三・小島圭三・石田勝義・杉村光俊（1988）. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 東海大学出版社（東京）.
- 小池充・平出久夫・牧内博・小林正明（1978）. 昆虫類. 諏訪の自然誌・動物編. pp.368-483. 諏訪教育会（諏訪）.
- 松岡達英・塩野米松（1993）. 野外探検大図鑑. 小学館（東京）.
- 信濃毎日新聞編集局（1986）. しなの動物記II 鳥・昆虫. 信濃毎日新聞社（長野）.
- 諏訪教育会自然研究部動物委員会（1981）. 諏訪の動物たち. 諏訪教育会（諏訪）.
- 海野和男（1993）. ポケット図鑑 昆虫. 成美堂出版（東京）.

ヤマユガの寄生バチについて

松 沢 か ね*

1. はじめに

ヤマユガ(天蚕)は日本全国の山野に生息している。鱗翅目ヤマユガ科に属し、一化性で、卵-幼虫-蛹-成虫(蛾)の完全変態を行う。卵の状態越冬し、クヌギ、コナラなどのブナ科の植物の葉を食べ、黄緑色の大型の繭を作る。ヤマユガは大型の昆虫であるが木の葉を食べるだけで他の昆虫を捕食することはない。天敵から身を守るために、保護色を保ちながら生きている。しかし、孵化(ふ化)したばかりの小さな幼虫は、アリ、クモなどに襲われたり、野鳥の繁殖期とも重なって鳥の餌になることもある。また天蚕が寄生バエの卵が付着している葉を食べたために、天蚕の体の中で養分を取って死なせることもある。寄生バチのように天蚕の体の中に卵を産みつけ、幼虫の栄養を奪って死なせるなど自然のヤマユガの天敵は多い。

茅野市永明寺山の雑木林にはコナラの木が多くあり、特に送電線添いや車道添いの切株から数本の芽の出た3~5 mほどの灌木に、ヤマユガやウスダヒガの幼虫が、木の葉を食べて生息している。本報ではヤマユガの天敵である寄生バチ(コンボウアメバチ)について観察した結果を報告する。

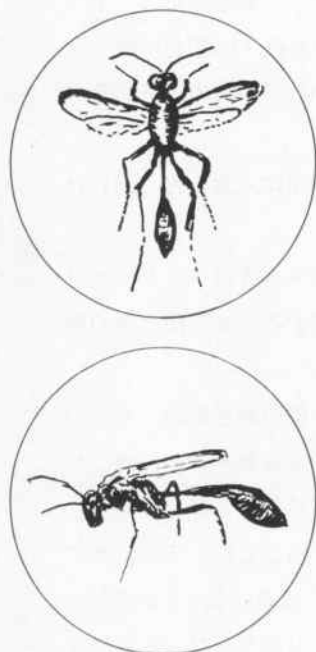


図1
コンボウアメバチの成虫

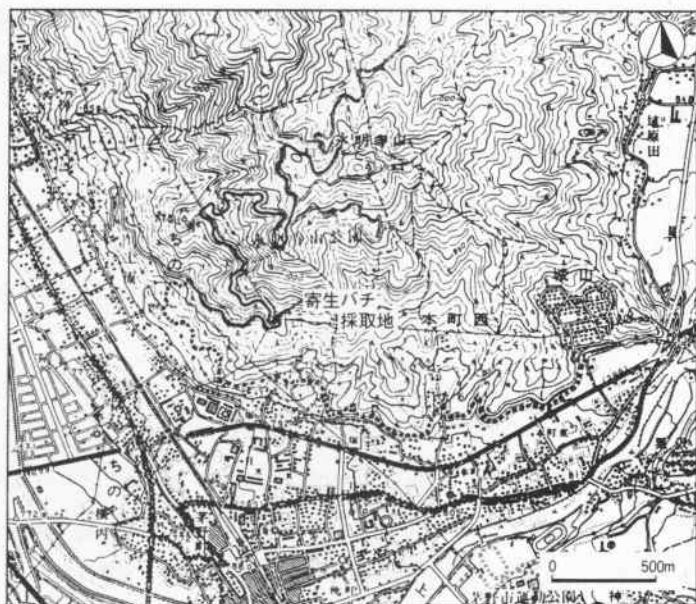


図2 寄生バチの採取地 ……遊歩道 ——車道

*八ヶ岳総合博物館学芸員補

2. 観察

木の葉もすっかり落ちた 12 月中旬、永明寺山への車道添いの雑木林の中で、コナラの木の枝（高さ 3 m）に羽化をしない緑色のヤマムユガの繭を 2 粒採取した。

ヤマムユガは卵の状態越冬し、春の孵化（ふ化）が定説になっているが、蛹の状態越冬し、春に羽化の可能性もあるかと思ひ、コナラの枝ごと繭を自宅に持ち帰り花ビンに差し置き春まで待つことにした。

春、コナラの葉が大きく広がり、野外のヤマムユガの幼虫は 2 令から 3 令に成長していた。5 月 30 日、昨年 12 月に採取した山繭が、カサカサと音がしたので、羽化の開始かと繭に注目した。繭柄と呼ぶ天上側に小さな穴があいた。ヤマムユガが羽化をする時は、だ液で繭を湿らせ糸をほぐしながら出てくるが、寄生バチは繭を食い破って穴をあけて出てくる。直径 5 mm の穴から黒い目が光り、黄色の長い一対の触角がすうっと伸びて、黒い頭が同時に出た。黄色の前足と黒光りする胸、蟬のような薄い二対の羽、長い後足が出た。赤茶に黒模様のスポイト状の腹部が出てきた。体長 3.5 cm もある大型の寄生バチの誕生である。体も羽もつやつやしたハチの成虫で、出殻繭にしばらく羽を休めていた。

3 日後、もう 1 粒の繭から同様の寄生バチが誕生した。

昆虫図鑑によると、ヒメバチ科、コンボウアメバチであることがわかった。

3. 考察

ヤマムユガの繭から寄生バチの出た繭をカミソリで縦に切り、中の状態をみると、ヤマムユガの幼虫は完全に蛹になっていた（脱皮殻あり）。蛹の頭部は直径 7 mm に食い破られ穴があいている。次に蛹の殻をハサミで縦に切ってみると、背部から下半身の一部が食べ残され固くなっていた。

上記の事から、ヤマムユガと寄生バチ（コンボウアメバチ）の関係は、食う虫と食われる虫の食物をめぐる関係であることが明らかである。

昆虫の親（成虫）は子孫を残すために産卵場所を選択する。ヤマムユガはクスギやナラの木を食べ、同じ木の枝に夏から秋にかけて、卵を分散し産卵する。木と同じ色の卵を産み付ける（平均 200 粒産卵）。

寄生バチは親バチがヤマムユガの幼虫を探し、幼虫の体の中に一個の卵を産む。寄生バチはヤマムユガの幼虫が営繭し、蛹化後に、卵から幼虫になり、蛹の栄養を奪い、死なせてしまう。寄生バチの幼虫はヤマムユガの固い繭の中で冬の寒さや外敵から身を守ることができ、餌を探す必要もなく成虫になる。秋から冬の間、繭の中で過ごしたハチは、春になり、ヤマムユガの幼虫が成長する時期を見計って、繭を食い破り、成虫になって出てくる。

ヤマムユガは多く産卵するが天敵も多く成虫になる確率は低い。しかし、コンボウアメバチは寄生生活をするので少量の産卵で成虫になる確率は高い。

4. まとめ

ヤマユガの幼虫（天蚕）の吐く絹糸は優雅な光沢を持ち、軽くてやわらかく、強度性に富み、天然繊維そのものの美しさがある。この天蚕は植物の葉を食べるだけで、他の昆虫を捕食することはない。ヤマユガは自分の身をコンボウアメバチに寄生されながら、ひたすら緑の繭をつくる。蛹になって、そのままコンボウアメバチの食料となる。宿主と寄生虫の関係である。

動物食の昆虫では、食う虫、食われる虫の関係は、いつも一方的で、諏訪地方のコンボウアメバチはヤマユガだけを選んで寄生し、食べる結果になることがわかった。

5. 参考文献

原色日本昆虫図鑑（下） 保育社 1983

コンボウアメバチの生活史

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵					—————							
幼虫	—————								—————			
成虫				—————								



写真1 雑木林

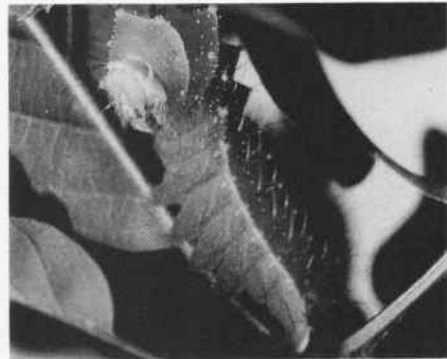


写真2 ヤマユガの幼虫

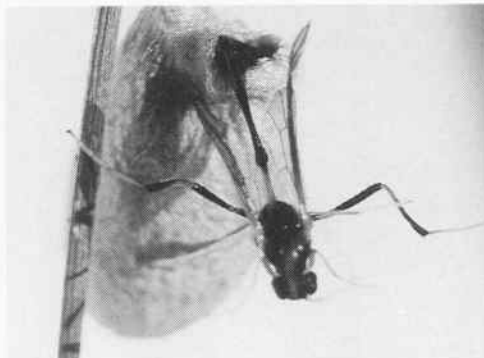


写真3 繭から出てきたコンボウアメバチの成虫

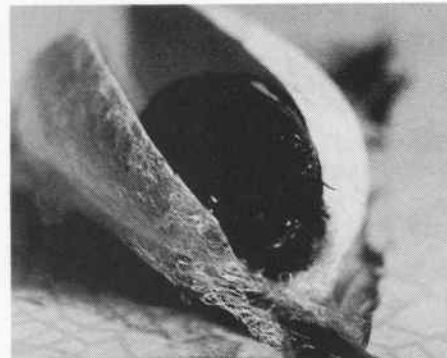


写真4 繭を縦に切った様子

Page 2

The following information was obtained from the records of the
 State of California, Department of Public Health, Division of
 Health Statistics, for the period from January 1, 1960, to
 December 31, 1960, concerning the number of deaths from
 cancer of the stomach in California, by county, sex, and
 race, and by age group, sex, and race.

County	Sex	Race	Age Group	Number of Deaths
Alameda	Male	White	15-24	0
			25-34	0
			35-44	0
	Female	White	15-24	0
			25-34	0
			35-44	0
	Total	White	15-24	0
			25-34	0
			35-44	0
		Total	15-24	0
			25-34	0
			35-44	0



Alameda County, California, 1960-1962



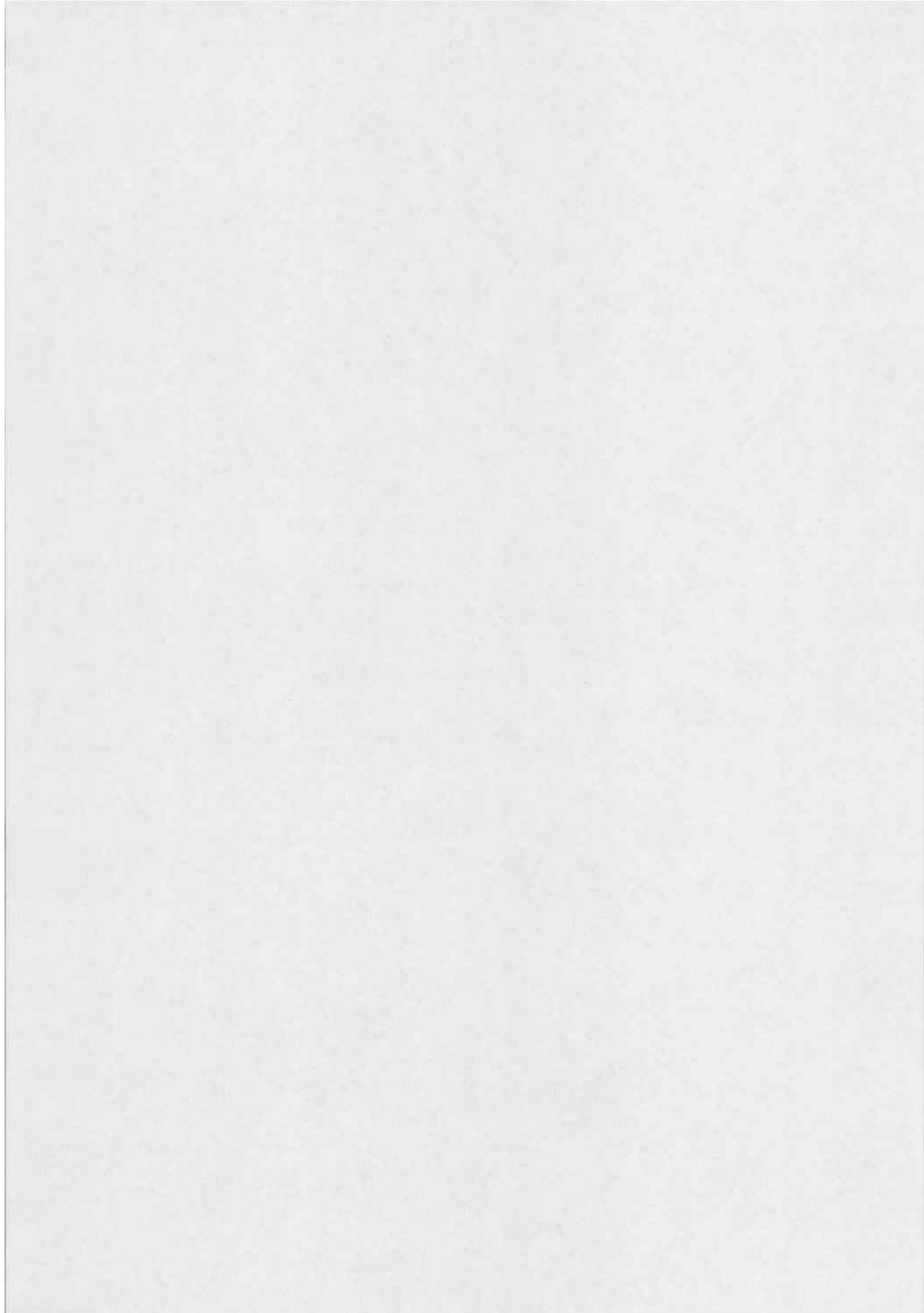
Alameda County, California, 1963-1965

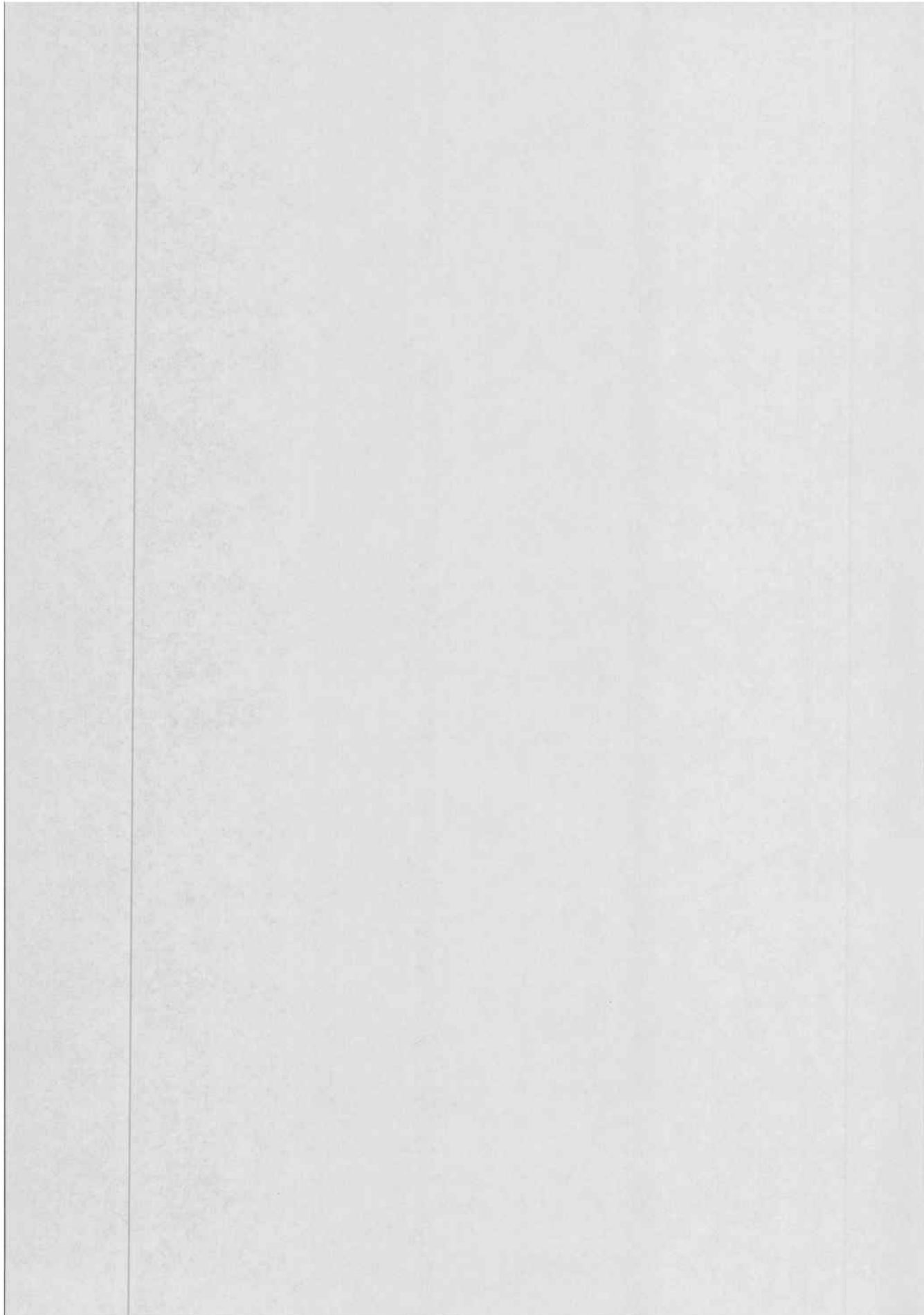


Alameda County, California, 1966-1968



Alameda County, California, 1969-1971





<平成7年度 茅野市八ヶ岳総合博物館事業報告>

1. 特別展

(1) 写真展

「水面下」～諏訪湖流域の魚たち～

7月25日～8月27日

水中写真家堀内康久氏の淡水魚の写真の展示

会期中入館者 3, 308名

(2) 民俗資料収蔵品展

「教科書とこどもをとりまくくらしの用具」

10月14日～11月12日

会期中入館者 1, 144名

(3) 研究創意工夫展

市内小中学生の作品（絵画・工作・研究）261点

11月23日～12月10日

会期中入館者 920名

2. 博物館小講演会（生涯学習センター共催） 参加者119名

(1) 「諏訪地域の地質」

6月25日

講師：小池 春夫（博物館専門委員）

(2) 「魚たちの変わった能力」

7月30日

講師：堀内 康久（水中写真家）

富永 正雄（元水産研究所所長）

(3) 「茅野市の建築について」

9月23日

講師：竹村 美幸（文化財審議委員）

(4) 「茅野市の湿原」

10月29日

講師：浜 篤（博物館専門委員）

(5) 「茅野市の石像物」

11月26日

講師：北原 昭（元市史偏纂委員）

(6) 「茅野市の動物たち」

2月25日

講師：両角 徹郎（茅野市教育長）

3. 博物館指定学級 23学級642名

（「遊学教室」一市内小学校の一学級に博物館や野外現地に来てもらい、半日の日程で体験学習を行う）

(1) 「土器作り」

米沢小学校 6年2組 32名

6月2日

講師：正木 美香（博物館学芸員）

(2) 「土器作り」

米沢小学校 6年1組 33名

6月7日

講師：正木 美香（博物館学芸員）

(3) 「遺跡発掘の体験」

豊平小学校 6学年 45名

6月15日

講師：功刀 司（文化財調査学芸員）

(4) 「遺跡発掘の体験」

湖東小学校 6学年 41名

6月16日

講師：功刀 司（文化財調査学芸員）

(5) 「繭から糸を取る、まゆ人形作り」

北山小学校 3学年 52名

6月28日

講師：松沢 かね（博物館学芸員補）

(6) 「土器作り」

金沢小学校 6学年 29名

7月6日

講師：正木 美香（博物館学芸員）

(7) 「土器作り」

永明小学校 6年1組 39名

7月7日

講師：正木 美香（博物館学芸員）

(8)「土器作り」

永明小学校 6年2組 39名

7月13日

講師：正木 美香（博物館学芸員）

(9)「土器作り」

永明小学校 6年3組 39名

7月14日

講師：正木 美香（博物館学芸員）

(10)「牛乳パックで紙すき」

北山小学校 2学年 39名

9月27日

講師：永富 直子（博物館学芸員）

(11)「牛乳パックで紙すき」

玉川小学校 2年2組 30名

9月28日

講師：永富 直子（博物館学芸員）

(12)「天草からところてんを作ろう」

豊平小学校 3学年 53名

12月21日

講師：松沢 かね（博物館学芸員補）

(13)「天草からところてんを作ろう」

金沢小学校 3学年 40名

1月17日

講師：松沢 かね（博物館学芸員補）

(14)「天草からところてんを作ろう」

玉川小学校 2年4組 30名

1月18日

講師：松沢 かね（博物館学芸員補）

(15)「天草からところてんを作ろう」

永明小学校 3年1組 31名

1月25日

講師：松沢 かね（博物館学芸員補）

(16) 「天草からところてんを作ろう」

永明小学校 3年3組 30名

1月26日

講師 : 松沢 かね (博物館学芸員補)

4. ふるさと講座

(1) 「身近な自然観察会」

6月10日 参加者20名

講師 : 林 正敏 (日本野鳥の会諏訪支部)

(2) 「史跡めぐり」

諏訪大社前宮及び周辺史跡の見学

7月16日 参加者16名

講師 : 藤森 明 (博物館専門委員)

(3) 「冬の探鳥会」

12月10日 参加者 4名

講師 : 林 正敏 (日本野鳥の会諏訪支部)

(4) 「古文書解読講座」

1月14日, 1月21日, 1月28日

2月3日, 2月11日, 2月18日, 2月25日

3月3日 8回開催 参加者39名

講師 : 細田 貴助 (神長官守矢史料館長)

5. 博物館ボランティア活動

博物館ボランティア講座の開講 (生涯学習センター共催)

参加者 26名

各専門分野に別れて学習を行い, 実践的にボランティア活動を行う。

5月29日 開講式

6月5日, 6月19日, 6月26日

7月3日, 7月17日, 7月24日

9月24日, 10月23日

専門分野ごとの学習

10月8日, 11月12日 実践的な活動

11月12日 閉校式

6, 博物館小中学生の日

10月28日 民俗資料収蔵品展の見学, 館内見学

参加者 17名

11月11日 たこ作り, 館内見学

参加者 29名

7, ロビー展示コーナー

諏訪地方の野鳥や動物の剥製, しめ飾り等展示

8, ロビー体験コーナー 22開催

- (1) 4月16日 はたおり (下ごしらえ)
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (2) 4月23日 はたおり
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (3) 5月21日 籐細工
指導: 樋口 波子 (茅野市米沢)
- (4) 5月28日 はたおり
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (5) 6月18日 はたおり
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (6) 7月 2日 はたおり
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (7) 7月23日 水の中の生物
指導: 勝野 貞義 (茅野市立東部中教諭)
- (8) 9月 3日 はたおり (したごしらえ)
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (9) 9月10日はたおり
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (10) 10月 8日 はたおり
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (11) 10月22日 竹とんぼ作り
指導: 篠原 淳郎 (博物館長)
- (12) 11月12日 はたおり
指導: 松沢 かね (博物館学芸員補)
- (13) 11月19日 小鳥のえさ台
指導: 篠原 淳朗 (博物館長)

- (14) 12月3日 籐細工
指導：樋口 波子（茅野市米沢）
- (15) 12月10日 まゆ人形作り
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）
- (16) 12月17日 しめ飾り作り
指導：平沢 忠由（茅野市 泉野）
- (17) 1月21日 わらぞうり作り
指導：渡辺 正晴（茅野市 米沢）
- (18) 1月28日 はたおり
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）
- (19) 2月11日 はたおり（下ごしらえ）
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）
- (20) 2月18日 はたおり
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）
- (21) 3月3日 小鳥の巣箱作り
指導：渡辺正晴（茅野市 米沢）
- (22) 3月10日 はたおり
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）

9, 各種事業

- (1) 博物館調査研究活動
八ヶ岳通信の発行 7月, 11月 各戸配布
図録 「教科書とこどもをとりまくくらしの用具」の発刊と販売
- (2) 共催事業
5月4日 東京ゾリステンミュージアムコンサート
6月12日 白馬大雪溪自然探勝会
8月9日 蓼科高原音楽祭チャリティーコンサート
11月28日 親子図書館、博物館講座（東京）
2月4日 優良映画鑑賞会 「耳をすませば」
- (3) 博物館学習会員 188名

<平成8年度 茅野市八ヶ岳総合博物館事業報告>

1, 特別展

(1) 写真展

「八ヶ岳の植物—標本と写真展—」

7月27日～8月25日

永富直子学芸員の高山植物の写真と諏訪教育会植物委員会の標本展示
会期中入館者3,134名

(2) 民俗資料収蔵品展

「いろいろをかこむ食べ物と暮らし」

10月22日～11月23日

会期中入館者1,213名

(3) 研究創意工夫展

市内小中学生の作品(絵画・工作・研究)246点

9月14日～10月1日

< 研究部門 >

茅野市長賞 宮川小学校6年 中村英理子

「日の出日の入り調べ」

茅野市教育委員会賞 東部中学校1年 宮坂あゆみ

「川の水質調査～弓振川～」

博物館長賞 米沢小学校4年 樋口 美香

「北大塩はりんどうの里」

< 工作・絵画部門 >

茅野市長賞 湖東小学校 5年 宮澤 育美

「好きなときに見える星座板」

茅野市教育委員会賞 玉川小学校 6年 小林 亮

「ひみつのかぎのある貯金箱」

博物館長賞 北山小学校2年 西田 菜穂

「ゆめのゆうえんち」

会期中入館者1,719名

2, 博物館小講演会(生涯学習センター共催) 参加者119名

(1) 「赤彦と八ヶ岳山麓の短歌文化活動をふくめて」

5月12日(日)

講師 : 伊東 一夫先生(東洋大学名誉教授)

- (2) 「水生昆虫について」
6月30日(日)
講師：茅野 靖夫先生(岡谷西部中学校教頭)
- (3) 「霧ヶ峰の植物について」
7月20日(日)
講師：坂本 圭司先生(諏訪市文化財審議委員)
- (4) 「ナウマンゾウの化石について」
2月23日(日)
講師：薩摩林忠美先生(落合小学校 校長)
- (5) 「山論(入会権を中心として)」
3月9日(日)
講師：細田 貴助(前神長官守矢史料館長)

3. 博物館指定学級 17学級540名

(「遊学教室」一市内小学校の一学級に博物館や野外現地に来てもらい、半日の日程で体験学習を行う)

- (1) 「火おこし体験」
永明小学校 6年1組 35名
6月4日(火)
講師：正木 美香(博物館学芸員)
- (2) 「火おこし体験」
永明小学校 6年2組 33名
6月5日(水)
講師：正木 美香(博物館学芸員)
- (3) 「火おこし体験」
永明小学校 6年3組 33名
6月7日(金)
講師：正木 美香(博物館学芸員)
- (4) 「土器作り」
金沢小学校 6学年 35名
6月12日(水)
講師：正木 美香(博物館学芸員)
- (5) 「まゆから糸をとる・まゆ人形作り」

玉川小学校 2年3組 40名

7月4日(木)

講師：松沢 かね(博物館学芸員補)

(6)「牛乳パックで紙すき」

泉野小学校 6学年 30名

7月9日(火)

講師：正木 美香(博物館学芸員)

(7)「牛乳パックで紙すき」

北山小学校 2年1・2組48名

7月11日(木)

講師：正木 美香(博物館学芸員)

(8)「牛乳パックで紙すき」

玉川小学校 2年1組 39名

7月12日(金)

講師：正木 美香(博物館学芸員)

(9)「遺跡の発掘体験」

湖東小学校 6年1・2組 47名

7月24日(水)

講師：功刀 司(文化財課学芸員)

(10)「遺跡の発掘体験」

米沢小学校 6年1組 27名

8月21日(水)

講師：守矢 昌文(文化財課学芸員)

(11)「牛乳パックで紙すき」

米沢小学校 6年2組 29名

8月22日(木)

講師：正木 美香(博物館学芸員)

(12)「遺跡の発掘体験」

米沢小学校 6年3組 27名

8月23日(金)

講師：守矢 昌文(文化財課学芸員)

(13)「遺跡の発掘体験」

豊平小学校 6年1・2組 43名

8月29日(木)

講師：小林 健治（文化財課学芸員）

(14) 「天草からところてんを作ろう」

宮川小学校 3年3組 36名

1月9日（木）

講師：松沢 かね（博物館学芸員補）

(15) 「天草からところてんを作ろう」

玉川小学校 2年2組 38名

1月10日（金）

講師：松沢 かね（博物館学芸員補）

4. 「古文書解読講座」

1月15日, 1月19日, 1月26日

2月2日, 2月9日, 2月16日, 2月22日

3月2日 8回開催 参加者46名

講師：細田 貴助（前神長官守矢史料館長）

5. 博物館ボランティア活動

博物館ボランティア講座の開講（生涯学習センター共催）

参加者 26名

各専門分野に別れて学習を行い、実践的にボランティア活動を行う。

4月28日（日）開講式

5月12日, 6月30日, 7月20日

10月6日, 11月17日, 2月23日

専門分野ごとの学習, 五味正人家文書整理

実践的な活動

3月9日（日）閉講式

6. 博物館小中学生の日

10月6日（日）「向井さん宇宙へ」ビデオ・ペットボトルロケット作り」

参加者60名

11月17日（日）ソバの粉作りとそば打ち体験

参加者40名

7, ロビー展示コーナー

博物館に収蔵された剥製の展示

8月1日(木)～8月31日(土)

8, ロビー体験コーナー 27回開催

(1) 4月14日 はたおり

指導：松沢 かね(博物館学芸員補)

(2) 4月21日 はたおり

指導：松沢 かね(博物館学芸員補)

(3) 5月25・26日 山菜の展示と相談教室

(4) 6月2日 はたおり

指導：松沢 かね(博物館学芸員補)

(5) 6月16日 籐細工

指導：樋口 波子(茅野市 米沢)

(6) 6月23日 まゆ人形作り

指導：松沢 かね(博物館学芸員補)

(7) 7月7日 はたおり

指導：松沢 かね(博物館学芸員補)

(8) 8月25日 はたおり

指導：松沢 かね(博物館学芸員補)

(9) 9月1日 拓本作り

指導：中村 昭(博物館専門委員)

(10) 9月8日 すすき細工

指導：丸山 仁(岡谷市 川岸)

(11) 9月22日 火きり体験

指導：渡辺 正晴(茅野市 米沢)

(12) 9月29日 はたおり

指導：松沢 かね(博物館学芸員補)

(13) 10月13日 小鳥のえさ台

指導：渡辺 正晴(茅野市 米沢)

(14) 10月27日 牛乳パックで紙すき

指導：正木 美香(博物館学芸員)

(15) 11月10日 はたおり

指導：松沢 かね(博物館学芸員補)

- (16) 11月23日 わらぞうり作り
指導：渡辺 正春（茅野市 米沢）
- (17) 12月 8日 ビニールびく作り
指導：百瀬 端穂（原村 柳沢）
- (18) 12月15日 はたおり
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）
- (19) 12月15日 クリスマスキャンドル作り
指導：両角 源美（博物館館長）
- (20) 12月22日 しめ飾り作り
指導：平沢 忠由（茅野市 泉野）
- (21) 1月19日 寒天作り
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）
- (22) 1月26日 籐細工
指導：樋口 波子（茅野市 米沢）
- (23) 2月 2日 はたおり
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）
- (24) 2月 9日 牛乳パックで望遠鏡作り
指導：両角 源美（博物館館長）
- (25) 2月16日 まゆ人形作り
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）
- (26) 3月 2日 小鳥の巣箱作り
指導：渡辺 正晴（茅野市 米沢）
- (27) 3月16日 はたおり
指導：松沢 かね（博物館学芸員補）

9、夏休み親子講座

- (1) 7月14日 パソコンを使いインターネットを体験する。
- (2) 8月 8日 動くおもちゃを作る。（ムカデロボット・ペットボトルロケット）

10、博物館年間調査研究活動

- (1) 博物館年間計画調査研究テーマの決定（カヤネズミ調査、五味正人家、五味益充家、どんど焼調査）
- (2) 博物館専門委員との連携（昆虫標本、両性類標本の収集）
- (3) 広報及び資料集の発行

八ヶ岳通信の発行 12月 各戸回覧

図録 「いろりを囲む食べ物と暮らし」の発刊と販売

(4) 紀要第6号の作成(3月)

11. 共催事業

5月25日 春の山菜展示と相談

5月26日 春の山菜展示と相談

6月6日 野外研修講座「針ノ木大雪溪自然探勝会」

6月9日 野外研修講座「針ノ木大雪溪自然探勝会」

8月1日 蓼科高原音楽祭チャリティーコンサート

5月17日(金)～月1回 観望会

茅野市北部生涯学習センターでテーマを決めて星座、彗星、惑星、二重星等の
観察。

ヘール・ボップ彗星観察会3月22日, 3月28日

博物館学習会員204名

12. 特別企画展

「伊東文庫による近代短歌資料展

—赤彦と八ヶ岳山麓の短歌文化活動をふくめて—

4月27日～5月19日

会期中の入館者 2,174名

博物館協議会委員名簿

委員長	武居	幸重	
副委員長	平沢	禮雄	
委員	小平	昌寿	
”	茅野	秋男	
”	伊藤	和夫	
”	長峰	英一	〔豊平小学校〕（7年度）
”	阿部	弘	〔泉野小学校〕（8年度）
”	小池	喜代	〔東部中学校〕
”	長田	並喜	
”	小平	邦雄	
”	矢島	範子	
”	土橋	正子	
”	井原	采子	

茅野市八ヶ岳総合博物館専門委員名簿

<平成7年度～平成8年度>

自然	両角	源美
自然	浜	篤
自然	植松	博美
自然	下山	良平
人文	藤森	明
人文	牛山	市弥
人文	中村	昭
人文	牛山	圭吾

茅野市八ヶ岳総合博物館職員名簿

<平成7年度>

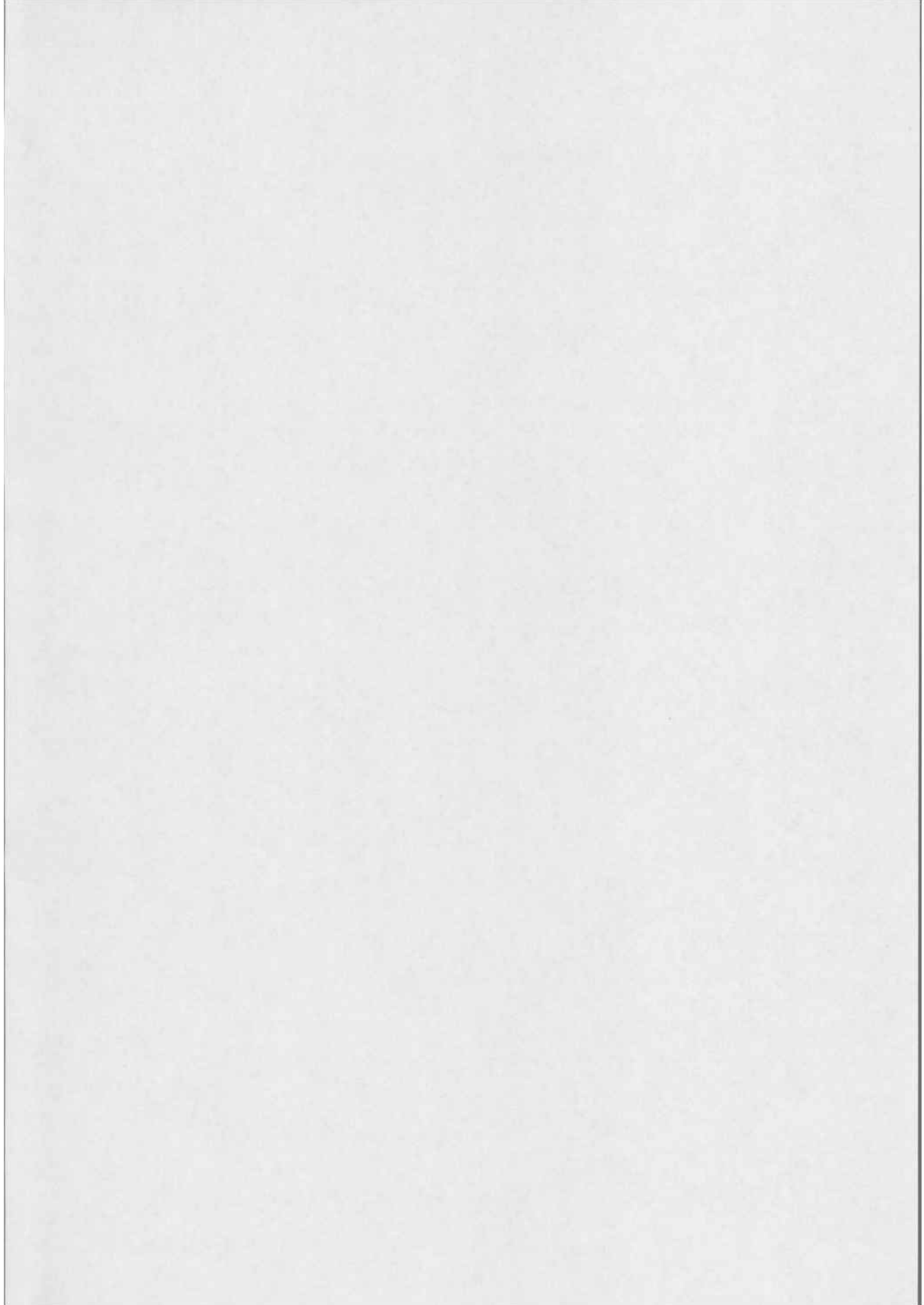
館長	篠原 淳朗	
係長	両角 清志	
学芸員	永富 直子	
	正木 美香	兼神長官守矢史料館
学芸員補	松沢 かね	
臨時職員	小林 美智子	
	竹村 純枝	
施設管理	鮎沢 信太郎	東急コミュニティー職員（委託）

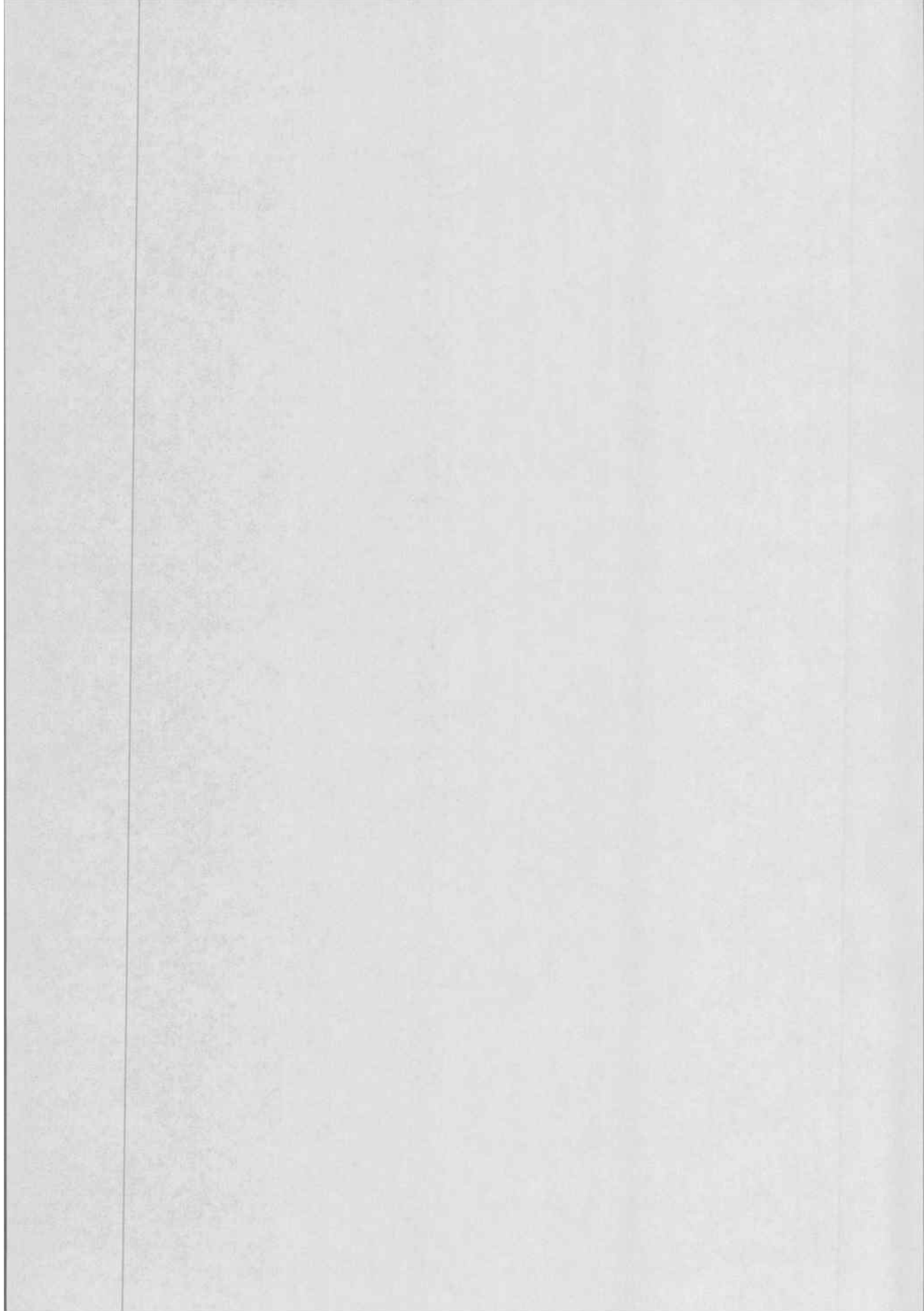
<平成8年度>

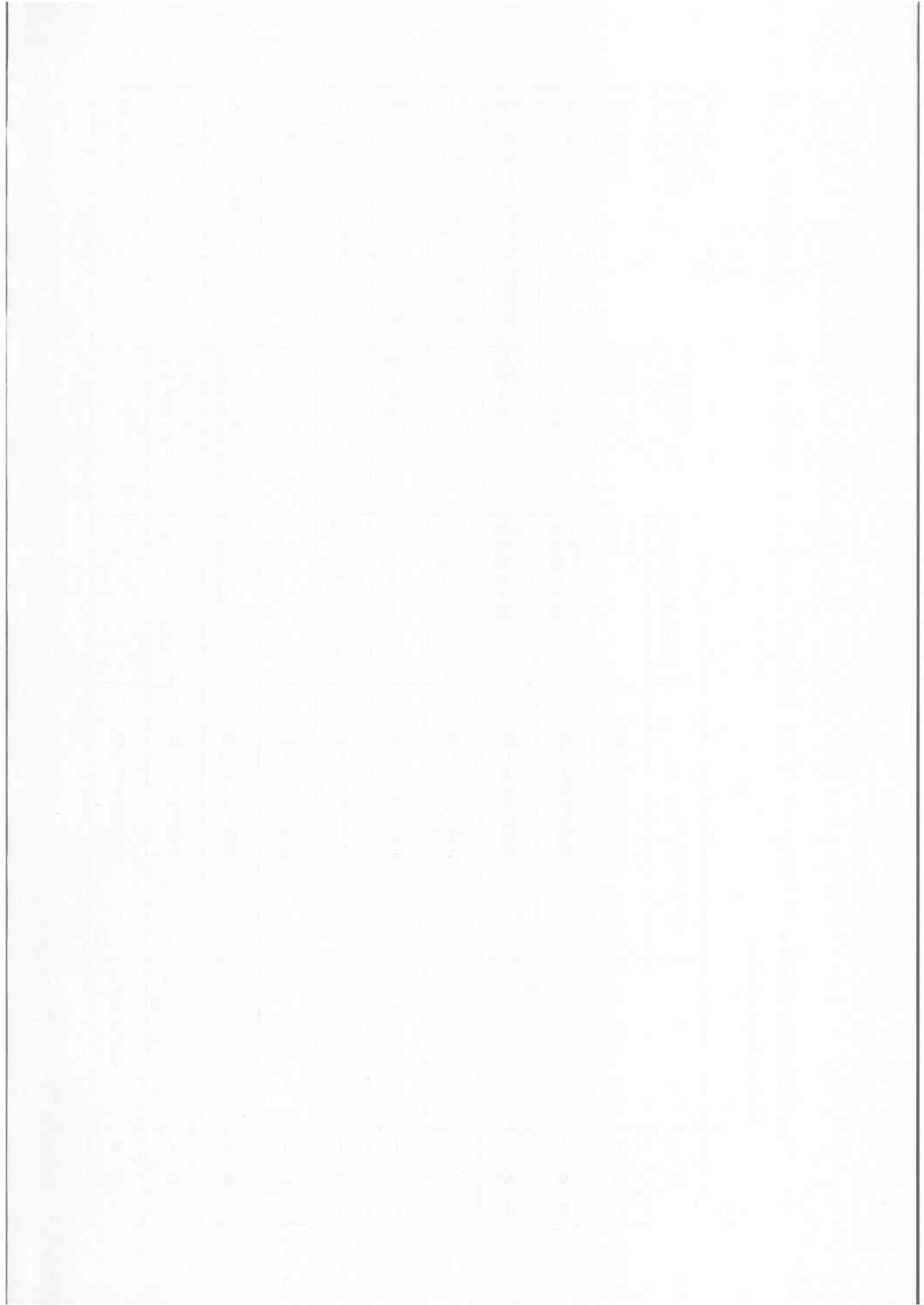
館長	両角 源美	
係長	両角 清志	
	五味 修一	
学芸員	永富 直子	
	正木 美香	
学芸員補	松沢 かね	
臨時職員	小林 美智子	
	竹村 純枝	
施設管理	鮎沢 信太郎	

表 1 臺灣地區各縣市人口統計表

縣市	總人口	戶數	人口密度
臺北	2,081,000	680,000	1,000
臺南	1,000,000	300,000	1,000
高雄	1,000,000	300,000	1,000
基隆	400,000	120,000	1,000
新竹	400,000	120,000	1,000
嘉義	400,000	120,000	1,000
屏東	400,000	120,000	1,000
花蓮	400,000	120,000	1,000
台東	400,000	120,000	1,000
澎湖	400,000	120,000	1,000
金門	400,000	120,000	1,000
馬祖	400,000	120,000	1,000
總計	10,000,000	3,000,000	1,000







85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75
出納日誌	(書簡)	記	昭和十年九月十九日取引書	昭和十年九月十九日取引書	昭和十年九月十九日取引書	九月二十一日御買付合計表	荷組帳	金銭出納帳	(備忘録)	(メモ)
大正五年八月九日↵	(昭和十年)九月二十四日	(昭和)十年九月三十日	昭和十年九月十九日	昭和十年九月十九日	昭和十年九月十九日	(昭和十年)九月二十一日	昭和六年三月二十日↵	明治四十年九月二十八日↵ 明治四十二年八月十三日	明治十四年二月十三日↵ 明治三十三年三月十三日	
△富屋(五味美津江)	草野名取	南諏繭絲市場 △富屋	南諏繭絲市場 △	金澤繭絲市場 トミ屋	金澤繭絲市場 トミ屋	泉野村繭市場利用組合 △	△富屋商店	五味米五郎	富家(五味和三郎)	
							堅瓊			
	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係
										富屋商店罫紙
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
24	23	23	23	23	23	23	22	21	20	19
	6	5	4	3	2	1				7

* 前茅野市神長官守矢史料館長
 ** 茅野市八ヶ岳総合博物館学芸員

74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	番号
(白紙)	(看費帳)	(メモ)	(電信送達紙)	(電信送達紙)	(電信送達紙)	(手習い手本)	六月十七日計算表	六月十七日計算表	六月十八日計算表	昭和十一年六月十一日分 集計表	昭和十年六月十日分集計表	文 書 名
			(昭和) 六・八・十三	(昭和) 六・八・九	(昭和) 六・八・十三		六月十七日	六月十七日	六月十八日	昭和十年 六月十一日	昭和十年 六月十日	年 月 日
				大林	オウ					△ 茂原繭市場	△ 茂原繭市場	差出人・作成者 受取人
												形態
	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	内 容
		富屋商店算紙										備 考
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	整理番号
19	19	19	19	19	19	18	17	17	17	17	17	
6	5	4	3	2	1		23	22	21	20	19	

62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50
電信送達紙	電信送達紙	電信送達紙	電信送達紙	電信送達紙	電信送達紙	電信送達紙	荷物受取證	荷物受取證	荷物受取證	記	約束手形	荷渡傳票
昭和十年 六月二十日	昭和十年 六月二十日	昭和十年 六月十九日	昭和十年 六月十九日	昭和十年 六月十一日	昭和十年 六月十七日	昭和十年 六月十三日	昭和十年 六月十三日	昭和十年 六月二十日	昭和十年 六月十六日	昭和十年 六月二十三日	昭和十年 六月二十日	(昭和十年) 六月十二日
ナトリサトシ	ナトリサトシ	ナトリサトシ	ナトリサトシ	ナトリサトシ	ナトリサトシ	ナトリサトシ	瀧澤商店	大黒屋洋品店 △富屋	大黒屋洋品店 △富屋	下館館 上	瀧澤辰五(郎) 成東繭市場	成東繭市場 トミヤ
繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6

49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	尊
荷渡傳票	記	受取證	繭取引規程	精算書	請求書	入帳通知書	日報	(象山書)	(書)	記	記	文 書 名
(昭和十年) 六月十八日	昭和十年 六月二十一日	昭和十年 六月二十日			昭和十年 六月十二日	昭和十年 六月七日	昭和十年 六月九日	文久三壬午年 四月		大正四年 十二月	大正四年 十二月二十八日	年 月 日
成東繭市場 トミヤ	竹材製籠商田邊新 富屋商店	成東運送合資会社 △富屋	茂原繭市場	茂原繭市場 富屋商店	茂原合同運送株式会社 △富屋	利繭市場 天	茂原繭市場	(佐久間象山)	又玄齋	刈福嶋屋商店 五味重五郎	下平日進堂藥房 五味重五郎	差出人・作成者 受取人
												形
繭・生糸取引關係	繭・生糸取引關係	繭・生糸取引關係	繭・生糸取引關係	繭・生糸取引關係	繭・生糸取引關係	繭・生糸取引關係	繭・生糸取引關係		玄遠	請求書	請求書	内 容
								木版				備 考
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	整理番号
17	17	17	17	17	17	17	17	16	15	14	14	
5	4	3	2-④	2-③	2-②	2-①	1			11	10	

37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25
記	記	キ	記	記	記	記	キ	記	出納日誌	三季講無尽金渡帳	(勘定記録)	□購買入勘定一号帳
大正四年 十二月二十八日	大正四年 十二月	(大正四年) 十二月	(大正四年) 十月三十一日	大正四年 十二月		大正四年 十二月	(大正)四年 十二月	大正四年 十二月	大正四年 三月八日	明治三十六年 三月	九月二十一日、 十二月三十一日	夏 大正十二年
下平日進堂薬房 五味重五郎	分醬油店 五味米五郎	合支店 △富屋	藤原屋 富屋	五味今朝一 五味重五郎	ほまれや 富屋	△麻屋商店 五味重五郎	さつきや 五味重五郎	五味源吉 五味重五郎	△富屋	五味米五郎		△富屋
										堅帳	堅帳	
請求書	請求書	請求書	請求書	請求書	請求書	請求書	請求書	請求書		無尽	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係
									九十一頁に請求書 十一枚		表紙欠	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13	12	11
9	8	7	6	5	4	3	2	1				

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	尊
通信用箋	大般若勅化帳	八束穂稲種	中新田と入相村々草場論 裁許之覚	(梅)	(繭取引書)	(漢詩)	郵便はがき	郵便はがき	郵便はがき	郵便はがき	郵便はがき	文書名
昭和十五年八月七日 ～八月二十七日	(文政九丙戌年 彼岸秋)		正徳六丙申 六月二十六日			元旦	昭和十年 九月八日	昭和十年 九月八日	昭和十年 九月八日	昭和十年 九月七日	昭和十年 九月七日	年月日
富屋商店	(宗湖庵)	諏方神社守屋要人		(雀窓)		御嶽山房 古畑純一	富屋 升屋	富屋 升屋	富屋 升屋	富屋 升屋	富屋 へ内	差出人・作成者 受取人
	堅帳		継紙									形態
繭・生糸取引関係	大般若経転読募集	煤払い用稲を納める事	正徳の草場争論写し	梅の絵		七言絶句	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	内容
	1の前文			21の包紙		朱印・四枚						備考
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	整理番号
10	9	8	7	7	6	5	4	4	4	4	4	
			1	0			9-⑤	9-④	9-③	9-②	9-①	

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
(メモ)	送状	貨物受取證	(メモ)	貨物受取證	貨物受取證	常總鐵道第一種貨物通知書	記	奉差上一札之事	濟口証文	繭買入勘定帳	(大般若勸化帳)	文書名
		昭和十年 九月七日		昭和十年 九月八日	昭和十年 九月八日	昭和十年 九月七日	昭和十年 九月八日	天保九戊戌年	文政十一子年 二月	大正十年 吉日	文政九丙戌年 秋彼岸	年月日
		名取敏 富屋		名取 富屋	名取敏 富屋	五味重五郎	五味	茅野村年寄 名主	深川大嶋町藤兵衛 御評定所	五味重五郎	茅野村宗湖庵	差出人・作成者 受取人
								切紙	堅帳		堅帳	形態
繭・生糸取引関係メモか	繭・生糸取引関係メモか	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係	繭・生糸取引関係 証文	千葉郡検見川村漁師との 論争の濟口証文		大般若經転読募集	内容
											表紙欠	備考
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	整理番号
4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	2	1	
8	7	6	5	4	3	2	1	2	1	-		

以下に記す目録は、当館で募集したボランティアの方々により、十一月十日から三月十六日まで八日間に渡り整理した文書を、細田貴助、正木美香が目録化したものである。なお、ボランティアの方々には、以下にお名前を記すことで、お礼に代えさせていただきたい。(順不同・敬称略)

宮坂加代子・伊藤功・北原富美江・伊藤益郎・金子信也
五味良文・山岸富登・伊藤金次郎・五味みゆき・岡角幸子
河田角二郎・柳平啓明・天野秀人・土橋正子・飯田美智子
室岡正男

凡例

一、本目録は、平成八年五月十七日に茅野市が寄贈を受けた「宮川茅野五味正人家文書」の目録である。

一、文書名は、表題の記載を尊重した。記載のないものは編者が付し、()で示した。

一、文書の欠落等、文字の判読のできないものについては□で記した。

一、年月日は、文書の記載の通りである。なお、記載はないものの、年号が確定的なものは編者が()で加えた。

一、差出人・作成者・受取人についても文書の記載を尊重したが、人数の多いものは「他□」で示し、肩書の長いものは多少省略し、また、表記はないものの確定的なものには編者が()で加えた。

一、整理番号は、寄託を受けた際の順序と固まりを尊重し、

一段目に何番目の固まり(文書)か、二段目にその固まりの内の何番目の固まり(文書)か、三段目には二段目に記した固まりの何番目の文書を記した。なお、○付の数字については、一つと数えられた文書の中に、二つ以上の文書が混ざっている場合(違う文書を継いである、違う帳を合わせて一冊にしてある、同じ紙に別件の記入)、右から、若しくは上から順番を付けて記した。よってこの番号は、実質的な数量とは違う。



整理作業を行うボランティアの方々

茅野市宮川茅野五味正人家文書目録（その一）

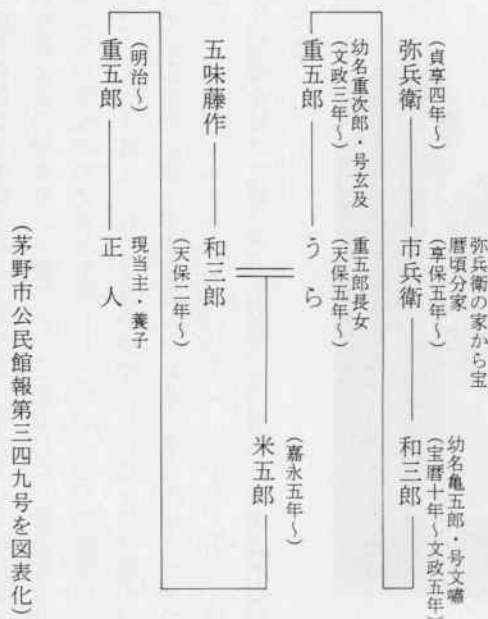
* 細田 貴助
** 正木 美香

宮川茅野に、明治天皇御巡幸御小休所の旧跡がある。明治天皇が、明治十三年の巡幸の際、六月二十三日に一時間ほど休憩に立ち寄った五味家の邸宅である。その屋敷が、このたび、取り壊されることになり、平成八年五月十七日、明治天皇御巡幸小休所関連資料は寄託、その他古文書・古書資料類は寄贈資料として、当館で保存活用に供するべく、収蔵することになった。

後、米五郎、重五郎を経て、現在に到るのだが、業であった製糸関係の近代資料のほか、澄口証文等の近世資料も多数集めた。また、全てを当紀要に掲載することができないため、前半八十五点のみをここに記す。

現五味家ご当主は七代目である正人氏で、現在東京に住んでおられ、正人氏より資料の寄託・寄贈をうけた。

さて、茅野市公民館報第三四九号によると、五味家は下のような系図になる。初代当主は、弥兵衛と言う家から宝暦ころ分家した市兵衛である。二代目の和四郎は寺子屋を開いていた。号を文嘯と称した俳人でもあった。著作に「農家俚語」があるほか、天龍道人とも交流があった。四代目と和四郎の時、明治天皇のご巡幸にあたり、酒造製糸業を営み、名家として顔役であった五味家を御小休所として使うことになった。そのため、上諏訪の某家老の門を移築したという。その



Order

1. 1950

2. 1951

3. 1952

4. 1953

5. 1954

6. 1955

7. 1956

8. 1957

9. 1958

10. 1959

11. 1960

12. 1961

13. 1962

14. 1963

15. 1964

16. 1965

1950

1951

1952

1953

1954

1955

1956

1957

1958

1959

1960

1961

1962

1963

1964

1965

1950

1951

1952

1953

1954

1955

1956

1957

1958

1959

1960

1961

1962

1963

1964

1965

1950

1951

1952

1953

1954

1955

1956

1957

1958

1959

1960

1961

1962

1963

1964

1965

1950

1951

1952

1953

1954

1955

1956

1957

1958

1959

1960

1961

1962

1963

1964

1965

1950

1951

1952

1953

1954

1955

1956

1957

1958

1959

1960

1961

1962

1963

1964

1965

1950

1951

1952

1953

1954

1955

1956

1957

1958

1959

1960

1961

1962

1963

1964

1965

1950

1951

1952

1953

1954

1955

1956

1957

1958

1959

1960

1961

1962

1963

1964

1965

1	番号							
軸	文書名	年月日	差出人・作成者 受取人	形態	内容	備考	整理番号	
			守矢篁山画					

藤森照信氏寄贈資料

1	番号							
諏訪上宮本社再建 十分之一函写	文書名	年月日	差出人・作成者 受取人	形態	内容	備考	整理番号	
						袋入り		

両角庸子氏寄託資料

18	17	16
信濃國洲羽大明神 神長守矢氏系譜	大繪圖寫	(青塚周辺図)
明治三十一年 戊戌清秋 上浣	四月廿日	
篁山守矢實久		
424	423	423
	15	14

*茅野市八ヶ岳総合博物館兼茅野市神長官守矢史料館学芸員

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	尊
紫船繪圖面	(見取図)	(側面図)	(絵図)	(石灯笼図)	(絵図)	(絵図)	御花表拾分一圖	(絵図)	大繪圖寫	下諏訪大明神秋宮絵図	十分一之圖	文書名
									(文化八年二月)	寛政四千子年	(文化八年)	年月日
							村岡直四郎呉□			大祝 社僧惣代 社家惣代	受取人・作成者	
												形態
		設計図	犬射馬場か	正面図	秋宮絵図			犬射馬場か			唐銅鳥居十分の一の図	内容
							花押					備考
423	423	423	423	423	423	423	423	423	423	423	423	整理番号
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	

守矢早苗氏寄託古文書

3	2	1	尊
(絵図)	(書画)	(上柱古図)	文書名
文化八年未年二月			年月日
	八峯山人守屋羣山他一名		差出人・作成者 受取人
			形態
唐銅鳥居再建に付		天正の古図	内容
	明治以後	天正の古図写し	備考
424	423	422	整理番号
1			

34	33	32	31	30
桐箱入り衣装 内訳	タイガイ	置床	文机	屏風
1 式 58 × 78.8 × 21.1	1 φ 29.6 × 51	1 24.6 × 35 × 12	1 43.3 × 91 × 29.7	6 曲 1 双 165 × 60 (1曲)
1 八ツ藤差袴 2 冬袍 (藍色) 3 袴 (水色) 4 齊服單 (白) 5 袍 (紫)				正三位藤 原光有書 筆山画 裏面に墨 繪有
桐箱	窓2カ所	足3本		

39	38	37	36	35
写真 内訳	藝目鎬矢	筆と筆立て 内訳	太筆	盃
1 アルバム 2 写真 (バラ)	2 94. 93	1 筆 2 筆立て	1 119	3
4 1式		1 組		
81		12		
		1 φ 6.9 × 16		
		足3本		大中小各 1
				6 差袴 (白) 7 袍 (深緑) 8 帽子 9 手拭

17 掛軸	1	内訳 鶴 松 三本松	16 釘隠	15 文机	14 肘掛	13 火台	12 衝立	11 座卓	10 銅鏡	9 剥製
			3	1	1	2	1	3	1	1
			52 × 85 × 34	7 × 37 × 30	27 × 27 × 49	140 × 148 121.5 × 131	91 × 91 × 30	瑞花双鳳八稜鏡 φ9 菊花双鳥鏡 φ14 古鏡(手鏡) 21 × 11 × 2	静岡県下 産十三斑 真羽山鳥 箱入り	
守矢篁山			網張り	肘掛部は 朱塗	一部欠け (格子桁)	足 の角欠	真中欠 つまみ欠			

29 屏風	28 横額	27 色紙	26 色紙	25 横額	24 横額	23 勅使間の部屋掛	22 色紙	21 来諫写真	20 連板	19 連板	18 短冊と短冊掛	
6曲1双 165 × 60(4冊)	1 46 × 118	1 62 × 35	1 41 × 33	1	1 47 × 168	1	1	2	1	1	1組	
篁山書画	激画	墨絵、真 入り	墨絵、静 思画、額 入り	書、額入 り	入江侍従 古翠館	林虎雄書 頼真書	房子書 額入り	皇太子、 皇太后、 額入り	真幸書、 イチイ	桐	松雲書、 真幸書	七言詩書

7	齒黒道具	1	φ7 × 8.5 × 4	漆工芸品
8	細長丸箱	1	■13.5 × 7 × 1	漆工芸品
9	水差し	1	■13 × 6.5 × 3.6	
10	金椀	1	■8 × 10 × 9	
11	櫛	4	φ7.4 × 5.4	
12	鼈甲へラ	1	5.0 × 10.5 × 0.5	漆工芸品
13	象牙へラ	3	5.0 × 10.5 × 0.5	漆工芸品
14	筆(小)	1	2.2 × 7.4 × 0.1	鼈甲
15	筆(大)	1	13.6 × 0.8 × 0.1	鼈甲
16	刷毛	3	12.3 × 0.8 × 0.1	象牙
17	蓋付丸鉢	1	12.0 × 2.3 × 0.1	象牙
18	つぼだら	1	20.2 × 1.2 × 0.1	象牙
19	手鏡(小)	1	0.8 × 11	漆工芸品
		1	φ4.5 × 15.0	漆工芸品
		3	17.7 × 2 × 2.5	漆工芸品
		1	17.5 × 1.5 × 0.5	漆工芸品
		1	17.6 × 1.7 × 0.4	漆工芸品
		1	■15.5 × 2.5	漆工芸品
		1	■15.6 × 8.0	漆工芸品
		1	■25 × 34 × 15	漆工芸品
		1	φ15.6 × 8	漆工芸品
		1	32 × 21.2 × 0.5	漆工芸品

6	源氏物語屏風	6曲1双		
7	三十六歌仙屏風	6曲1双		
8	軸			
9	内訳			
20	手鏡(大)	1	35.5 × 24 × 0.5	漆工芸品
21	手鏡箱(小)	1	■26.7 × 38.5 × 3	漆工芸品
22	手鏡(大)	1	■25.6 × 37.2 × 2.5	漆工芸品
23	鏡立て	1	■33.2 × 22.5 × 2.5	漆工芸品
1		1	59.5 × 28 × 2	漆工芸品
1	後陽成帝御震筆	1		箱入
2	御奈良帝御震筆 (写)	1		箱入
3	谷文晁墨山水	1		箱入
4	玉蘭女子草花	1		箱入
5	三夕図	3		狩野時信
6	明陸復塞梅画	1		筆箱入
7	狩野永真	1		筆箱入
8	筆極外	1		筆箱入
9	題添	1		筆箱入
10	箱入	1		筆箱入
11	諏方宮長	1		延実謹書
12	官神朝臣	1		延実謹書
13	延実謹書	1		延実謹書

神長官守矢史料館受託什器類目録

* 正木美香

平成三年三月に茅野市神長官守矢史料館が開館し、それ以来今日（平成九年三月）までに、守矢家より一、六〇〇余点の古文書の他、守矢早苗氏及び両角庸子氏より什器・古文書類を受託した。また、藤森照信氏より資料の寄贈を受けたので、以下に記す。

法量は、基本として 長さ×幅×高さ（cm）について表記した。

守矢早苗氏寄託什器

番号	品名	数量	寸法	備考
1	サナギ鈴	1	φ4×17.8×0.6離	
2	鉄鈴	1	2.7×3.5×19.5	
3	鹿食免 内訳	2	1 諏訪神社	版木
			2 諏方宮神長官	
4	十角塗分け重箱	1	φ24.3×38	漆工芸品 箱入り

5 大祝即位化粧道具		1 式		
内訳				
1	化粧道具箱	1	24.5×31×39.7	箱入り 漆工芸品
2	短冊型箱(大)	1	幅 11.4×4×1.5	中仕切付 漆工芸品
3	白粉箱(小)	1	幅 21.2×4.1×3	漆工芸品
4	白粉箱(大)	1	幅 5.9×5.9×3.2	漆工芸品
5	歯黒箱(小)	1	幅 5.2×5.2×4.8	漆工芸品
6	歯黒箱(大)	1	幅 6.2×6.2×3.2	漆工芸品
		1	幅 5.4×5.4×5	漆工芸品
		1	幅 6×2	漆工芸品
		1	幅 5.6×0.8	漆工芸品
		1	幅 5.9×4	漆工芸品
		1	幅 6.5×3	漆工芸品
		1	幅 5.6×1.2	漆工芸品
		1	幅 6.4×5.7	漆工芸品

- | | |
|--------------|---------------|
| 一、下文(二十二) | 二、上社由緒(百) |
| 三、神事祭礼(三十二) | 四、御頭(百一) |
| 五、御柱(九十三) | 六、日記書留(八十九) |
| 七、武田氏書状(三十六) | 八、武将書状(五十四) |
| 九、叙位(二十六) | 一〇、知行(百四十八) |
| 一一、神領(五十二) | 一二、伊那郡(八十六) |
| 一三、社家社人(八十二) | 一四、建築(四十九) |
| 一五、祈神社參(百八) | 一六、太々神樂(四十三) |
| 一七、神人神鉾(四十五) | 一八、神道葬祭(二百十六) |
| 一九、村々神社(四十二) | 二〇、文化(百十三) |
| 二一、守矢家(百五十八) | 二二、一般(三十七) |
- () 内には文書数を示した。なお、○付きの文書も一点と数えたので、実際の文書数より多くなっている。

目録発刊と今後の予定

目録の完成後、一般閲覧の為の準備に手間取ったが、平成七年十二月一日に目録冊子の販売及び守矢文書の複写資料の一般公開を開始する事ができた。

一般公開開始の少し前に長野県立歴史館の秋季企画展「信濃における戦国争乱の世界」に三点、諏訪市博物館の「諏訪大社上社の建築彫刻下図展」に二点貸出し、展示が行なわれた。九年度には長野市立博物館の長野市制百周年記念事業第

三九回特別展「古代・中世人の祈り―北信濃と善光寺信仰―」に一点貸出が決まっている。

また、公開が始まってから平成八年度まで、一般研究者の閲覧が約五十名、閲覧資料数は百点を超えた。このことから、信濃或は諏訪の歴史を知る上でなくてはならないと言われる守矢文書は、正に県民の宝であることを痛感している。

これら文書を後世に伝えるため、また、一般に供するため、史料のマイクロフィルム化と写真撮影を考えている。

マイクロフィルム化については、実施計画事業として今年度、一二〇〇点の資料の撮影を終え、来年度さらに撮影を進めていく予定である。今後は、いかに史料を保存し、また、公開していくかが課題になるといえよう。

* 茅野市八ヶ岳総合博物館兼茅野市神長官守矢史料館 学芸員



補足・見直し・照合作業

文書番号は、仮目録でつけた番号の欠番等を勘案し、順送りしてつけ、また、「原秩序尊重の原則」に倣ってどういった固まりで文書があったかわかるよう整理番号をつけた。整理番号は、博物館に持ち込まれてからの配列順序で番号をつけ、その順序と固まりを尊重した。一つ目の数字に何番目の

固まり（文書）か、二つ目にその固まりの内の何番目の固まり（文書）か、三つ目には二つ目に記した固まりの何番目の文書かを記し、ハイホンでつないだ。また、一つと数えられた文書の中に、二つ以上の文書が混ざっている場合（違う文書を継いである、違う帳を合わせて一冊にしてある、同じ紙に別件の記入）には、○付の数字を付けた。

文書の形態は、堅帳・横帳・横半帳・堅紙・切紙・折紙・継紙に大別し、概念の統一を図った。

表題・年月日・差出人・受取人等は、なるべく原文を尊重する形で補足した。しかし、長野県宝に指定されているもので原文の標題と異なる文書名を持つものは、県宝での呼び名が有名であることもあり、県宝での呼び名を（ ）で示した。なお、表題・年月日・差出人・受取人等の記載のないものでも、推測できるものは（ ）で付けた。

目録カードの補足と共に、文書原本を中性紙の封筒に入れ、その封筒に文書番号・整理番号・文書名・形態・年代・差出人・受取人・主内容を記入。また、コピーとの照合も併せて行った。

その目録カードをもとに、データベース「桐」に入力し、その上で目的の文書を検索しやすくするため、幾つかの項目に分け、その中で編年順に構成した目録冊子の作成に入った。当初、四十五項目に分類したが、細かく分けすぎて、却って分かりにくくなったので、左記二十二項目に分類した。

諏訪神社上社神長官守矢家文書目録作成について

* 正木美香

仮目録作成と寄託契約

平成五年度、神奈川県藤沢市在住の民俗芸能史研究者・飯田市美術博物館客員研究員武井正弘氏の指導により、諏訪神社上社神長官守矢家文書（以下守矢文書と記す）仮目録作成及び粗整理を行った。

武井氏指導のもと、博物館協議会委員・文化財審議委員・諏訪研究会会員等、沢山の皆さんのご協力を得て作業は進められた。

作業手順は、文書のコピーを三部とり、一般閲覧用・保存用・目録カード用とした。

目録カードは、右上に、箱から取り出した順番で、一番から番号を付ける。以下、文書名・文書から読み取れる年月日・名前・寸法・形態・数量を記入して、コピーを添付したものを二通作り、一通は目録カード原本用に、もう一通は確認用にした。

一通りのコピーとりと、目録カード作りの終了後、文書原本・確認用目録カード・コピー（副本）の三つを照合し、確

認作業をした。ここで落ちがないか確認し、目録カードがない場合は、原本を確認し、それでもない場合は、新たに目録カードを作った。

三点が揃ったものは、目録カードの番号にあわせ、ラベルに番号を記入し、副本に貼り付けていく。文書原本は、封筒にしまい、封筒に番号付けをし、作業を終了した。

その後、目録カードから、仮目録冊子を作り、それをもとに平成六年八月十一日、守矢家当主守矢早苗氏と茅野市は寄託契約を結んだ。

本目録の作成

守矢文書目録作成は長年の懸案となっており、仮目録作成及び粗整理の終了した時点から、仮目録の確認作業を行った。

仮目録においては、形態・年月日等の概念が、多種多様に及んでいること、文書の内容にはほとんど触れない目録であること等、目録カードの補足がまず必要であると判断し、見直しをする作業を行った。

Introduction

Objectives

- 1. To understand the basic concepts of the subject.
- 2. To study the various types of...
- 3. To analyze the...
- 4. To evaluate the...

Scope

- 1. The scope of the subject is...
- 2. It covers the following areas...
- 3. The study is limited to...

The subject is designed to provide a comprehensive understanding of the various aspects of the field. It is intended for students who are interested in the subject and wish to gain a solid foundation in the area.

The course is structured to cover the following topics: [Topic 1], [Topic 2], [Topic 3], [Topic 4], [Topic 5]. Each topic is presented in a clear and concise manner, with a focus on practical applications and problem-solving.

By the end of the course, students should be able to: [Objective 1], [Objective 2], [Objective 3]. The course is designed to be both challenging and rewarding, providing students with the opportunity to develop their critical thinking and analytical skills.

The course is taught by [Instructor Name], who has extensive experience in the field and is committed to providing a high-quality learning experience for all students. The course is held at [Location] and is available to students from [Institution Name].

目次

人文歴史部門

人文歴史部門

・諏訪神社上社神長官守矢家文書目録作成について……………正木 美香 (二)

・神長官守矢史料館受託什器目録……………正木 美香 (四)

・茅野市宮川茅野五味正人家文書目録(その一)……………細田 貴助 (十一)

正木 美香

自然部門

・諏訪地方におけるカヤネズミの……………両角 源美 (一)

生息状況について2……………永富 直子

……………両角 徹郎

・上川河川敷におけるオオヨシキリ類の巢の分布について……………永富 直子 (9)

……………両角 源美

・茅野市八ヶ岳総合博物館所蔵の……………下山 良平 (17)

ナガレタゴガエル標本について……………下山 良平 (23)

・茅野市内で採集した大型トンボ類について(第1報)……………松沢 かね (27)

・ヤママユガの寄生バチについて……………

年報

・平成7年度事業報告……………(31)

・平成8年度事業報告……………(37)

紀 要 第 6 号 1997年3月31日

編集発行 茅野市八ヶ岳総合博物館
〒391 長野県茅野市豊平6983番地
TEL 0266 (73) 0300
FAX 0266 (72) 6119

紀
要

第 六 号

〈平成八年度〉

《人文歴史部門》

茅野市八ヶ岳総合博物館